NTT

Netcommunity SYSTEM

BX

取扱説明書

ND ナンバー・ディスプレイ 対応
ネーム・ディスプレイ

ブロードバンドルータユニット

本商品はネットコミュニティシステムBX
主装置タイプに内蔵されています。

このたびは、ネットコミュニティシステム　BX
ブロードバンドルータユニットをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。

技術基準適合認証品
BX-BRU-〈1〉

1 お使いになる前に
2 接続する
3 データ設定を行う
4 運用する
5 主な設定例
6 ご参考に

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

⚠ **危険**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP **お願い**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

- 本書は、ネットコミュニティシステム BX標準電話機を例として記載しており、本文中では、特に断りがない限り「内線電話機」という表現を用いております。
- 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
  This telephone system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信、録音などの機会を逸したために生じた損害、または本商品に登録された情報内容の消失などにより生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いします。
- 本商品は、お客様固有の情報を保存または保持可能な商品です。本商品内に保存または保持された情報の流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に保存または保持された情報を取扱説明書の消去方法（☛P8）にしたがって消去願います。
- 本商品の設置工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事、修理は違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本商品の取り扱いについては、本書とともに必ず、ネットコミュニティシステム BXシリーズの取扱説明書をよくお読みになり、理解したうえでお使いください。
- 本商品の取り扱いについては、本書とともに必ず、ご使用のパソコンの取扱説明書をよくお読みになり、理解したうえでお使いください。
- 商品の外観および機能などの仕様は、お客様にお知らせすることなく変更される場合があります。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。
- 外部からの不正な（意図しない）アクセス等により、IP電話およびインターネットがご利用できなくなる場合があります。このような場合は弊社ホームページ等で最新のプログラムをその都度提供してまいりますので、対応内容をご確認のうえ、最新バージョンをご利用いただきますようお願いします。なおプログラムのバージョンアップに関しては「プログラムをバージョンアップするには」（☛P58）を参照してください。

＊Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
＊Microsoft®、Windows®、Windows Vista®、Internet Explorer®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
＊その他、記載の製品名や会社名は各社の商標または登録商標です。

⚠ 危険

●蓄電池は密閉空間には設置しないでください。爆発や火災により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。

●蓄電池は火気の近くには設置しないでください。爆発や火災により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。

●蓄電池を使用する場合は、次のことを必ず守ってください。蓄電池の損傷により、火災・感電の原因となることがあります。
- 電池のプラス端子とマイナス端子間を針金などの金属類で接続しない。
- 火の中に投入したり、加熱しない。
- 金属工具を使用する場合は、ビニールテープなどで絶縁したものを使用する。

●蓄電池を改造または分解しないでください。蓄電池の液もれ、発熱、破裂等により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。蓄電池の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

●蓄電池内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

●蓄電池は定期的に交換してください。交換時期を過ぎて使用した場合、電槽の破損により漏電の原因となることがあります。蓄電池の交換については、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

●蓄電池を単体では充電しないでください。蓄電池の液もれ、発熱、破裂等により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

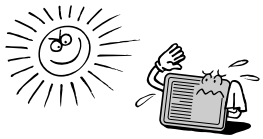
設置について

⚠ 警告

●主装置、電話機、モジュラージャックや電話配線のそばに、水や液体の入った花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品などの容器、または小さな金属類を置かないでください。主装置、電話機、モジュラージャックや電話配線に水や液体がこぼれたり、小さな金属類が中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

●主装置、電話機やモジュラージャックは次のような環境に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- 直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーなどの近くや屋外などの温度の上がる場所。
- 調理台のそばなど、油飛びや湯気の当たるような場所。
- 湿気の多い場所や水･油･薬品などのかかる恐れがある場所。
- ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所。
- 製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。



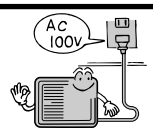
●主装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと、主装置の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。次のような設置のしかたはしないでください。

- 主装置を仰向けや横倒し、逆さまにする。
- 主装置を収納棚や本箱、配線ボックスなどの風通しの悪い狭い場所に押し込む。
- 主装置をじゅうたんや布団の上に置く。
- 主装置にテーブルクロスなどをかける。
- 主装置の周りに物をおいて、通風孔をふさぐ。

お取り扱いについて

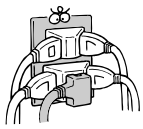
⚠ 警告

●電源は、AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。



●電源プラグは電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、火災・感電の原因となることがあります。

●テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、主装置の誤動作の原因となることもあります。



●お客様による主装置の設置工事、配線作業、修理、移動などは危険ですから絶対におやめください。主装置の設置工事、配線作業、修理、移動などを行うときは、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

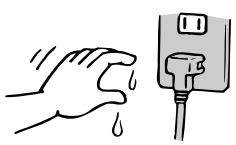
●万一、主装置内部のヒューズ切れなどにより使用不可となった場合は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。お客様によるヒューズの交換は絶対に行わないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認し、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

●万一、主装置を倒したり、主装置キャビネットを破損した場合は、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

●主装置や電話機から異常音がしたり、主装置キャビネットが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に点検をご依頼ください。

●主装置、電話機、モジュラージャックや電話配線に水をかけたり、ぬれた手での操作や電源プラグの抜き差しをしないでください。火災・感電の原因となることがあります。



●主装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災･感電の原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

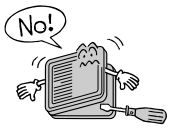
安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠ 警告

●万一、主装置内部、電話機、モジュラージャックや電気配線に水などの液体が入った場合、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

●主装置や電話機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください（分解、改造された主装置や電話機は修理に応じられない場合があります）。

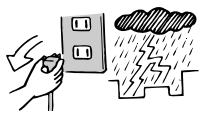
●主装置のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください。



●主装置の電源コードおよび電話機までの配線などを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりするとコードおよび配線が破損し、火災・感電の原因となることがあります。コードおよび配線が傷んだら、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

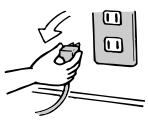
●主装置の電源コードおよび電話機までの配線などが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災･感電の原因となることがあります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

●近くに雷が発生したときは、すぐに電源プラグを電源コンセントから抜き、主装置の電源スイッチを切って、ご使用を控えてください。雷による、火災・感電の原因となることがあります。



●主装置や電話機、電源コード類を熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源コード類の被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電や断線の原因となることがあります。



●コードレス電話機は、航空機内や病院内などの使用を禁止された区域では、電源を切るか持ち込まないでください。電子機器や医療機器に影響を与え事故の原因となることがあります。

●電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から１年に１回は、電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関しては当社のサービス取扱所にご相談ください。

●お客様が用意された機器を主装置および電話機に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所にご確認ください。確認できない場合は絶対に接続してお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。

設置について

⚠ 注意

●主装置や電話機は次のような場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所。
- 振動、衝撃の多い場所。

●主装置や電話機を床面設置する場合や壁掛け設置する場合は、専用の取り付け用品によりしっかりと固定設置してください。固定が不十分な場合、落下、転倒の原因となることがあります。

●屋外に渡る配線は行わないでください。特に、建物から建物へ空中を通す配線は雷などによる故障の原因となることがあります。

お取り扱いについて

⚠ 注意

●主装置や電話機の上に重い物をのせないでください。バランスがくずれて落下やけがの原因となることがあります。

●主装置や電話機に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

●本商品を長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

●主装置は高度な技術によって構成された精密機器です。より安心して使用していただくためには、当社の定期点検をお受けすることをお勧めします。詳しくは、当社のサービス取扱所にお問い合わせください。

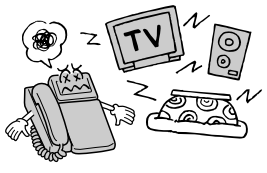
●電話機の底面には、ゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。

●受話音量を明瞭モードに切り替えて、音量を大きくしたまま使用すると、聴力障害の原因となることがあります。

設置について

STOP お願い

●主装置や電話機を電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、インバータエアコン、電磁調理器など）。
- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、電話機などの設置場所を移動してみてください。



安全にお使いいただくために必ずお読みください

STOP お願い

- ●電話機は平らな面を置いてお使いください。落下や故障の原因となることがあります。
- ●硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（海岸）などでは、主装置や電話機などの寿命が短くなることがあります。

お取り扱いについて

STOP お願い

- ●主装置や電話機などをぬれたぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。主装置や電話機などの変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

- ●停電中に主装置の電源スイッチを切らないでください。停電復旧時に使用できなくなります。
- ●停電のときは、停電用電話機を使用してください。
  - 他の内線電話機は使えません。
  - ドアホンは使えません。
  - 発信電話番号表示機能は使えません。
- ●ナンバー・ディスプレイや発信者番号表示のご利用に際しては、総務省の定める「発信者情報サービスの利用における発信者個人情報の保護に関するガイドライン」を尊重してご利用願います。
- ●ナンバー・ディスプレイや発信者番号表示を利用して着信拒否を設定している場合は、緊急の件でも着信音は鳴りませんのでご注意ください。
- ●受話器は逆方向に掛けないでください。正常に動作できないことがあります。
- ●電話機コードを引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。
- ●電話機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

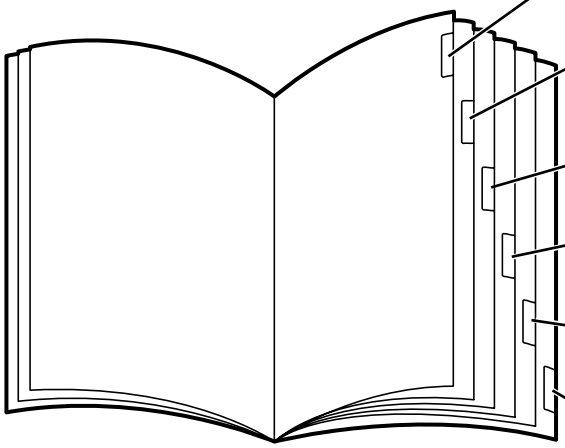
廃棄（または譲渡、返却）される場合のご注意

本商品は、お客様固有のデータを登録または保持可能な商品です。本商品内に登録または保持されたデータの流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に登録または保持されたデータを下表にしたがって消去または変更願います。
ただし、システムデータに保持されているお客様固有情報は下表の処置では消去されませんので、消去したい場合には当社のサービス取扱所にご相談ください。

記録内容	**処置**（取扱説明書参照ページ）
すべての設定データ	P48を参照し、本商品を初期化してください。

この取扱説明書の見方

この取扱説明書の構成



1 お使いになる前に
お使いになる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

2 接続する
本商品と周辺機器の接続方法について説明しています。

3 データ設定を行う
各種データ設定について説明しています。

4 運用する
IP電話サービス、運用中に行えるレポート情報の表示や手動による操作方法について説明しています。

5 主な設定例
インターネットとの接続設定例など、主な設定例を紹介しています。

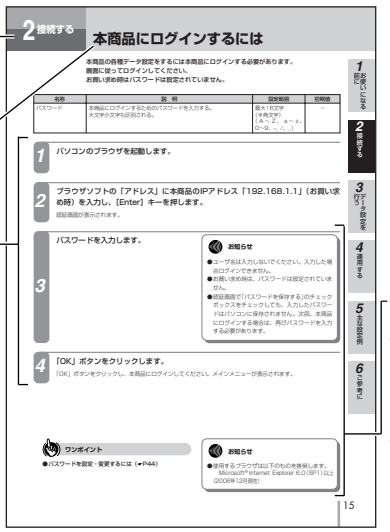
6 ご参考に
IPアドレスの割り付け方法やフィルタリングなどについて説明しています。また、本書で使われている用語を説明しています。

操作説明ページの構成

章タイトル
章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトルが付けられています。

操作手順説明
順番に操作を説明しています。



ワンポイント／お願い／お知らせ

〈ワンポイント〉
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足をしています。

〈お願い〉
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。

〈お知らせ〉
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

目　次

安全にお使いいただくために必ずお読みください・・・2
この取扱説明書の見方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

1 お使いになる前に

特長 ・・・11
利用例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL接続 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

特　長

本商品は、ネットコミュニティシステム BXシリーズ用ブロードバンドルータユニットです。
次のような特長があります。

フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL接続機能
光アクセスONU、またはADSLモデムと接続し、PPPoverEthernetによりフレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSLを利用することができます。

PPPoEブリッジ機能
LAN側に接続されているパソコンからPPPoEプロトコルで直接インターネットに接続してグローバルIPアドレスを取得することができます。

IPv6ブリッジ機能
本商品のLAN/WANインタフェースに接続されているネットワーク機器同士でIPv6プロトコルによる通信を行うことができます。

アドレス割り付け（DHCP）
- DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）クライアント機能を持つ端末に、動的にIPアドレス、DNSサーバアドレス、ゲートウェイアドレスなどの割り付けを行うことができます。
- ネットワーク内のIPアドレス管理ができ、端末の設定を簡単に行えます。
- 端末ごとに登録されたIPアドレスを静的に割り付けることもできます。

ルーティング機能
ルーティング機能として、スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティングと、ルーティングプロトコル（RIP）を使用したダイナミックルーティングをサポートしています。

IP電話*サービス機能
IP網を利用して、内線電話機からIP電話を利用することができます。

UPnP機能
LAN側に接続されているパソコンからUPnP対応アプリケーションを使用してインターネット側の端末と通信することができます。

IPアドレス変換機能
- NATの独自拡張により、ローカルLANのIPアドレスからグローバルIPアドレスへの変換を行います。
- IPアドレスの変換を行うことにより、ローカルLANを隠ぺいすることができるので、セキュリティ効果が得られます。

ブラウザによる保守機能
ブラウザソフトにより、ネットワーク上の端末から保守を行うことができます。

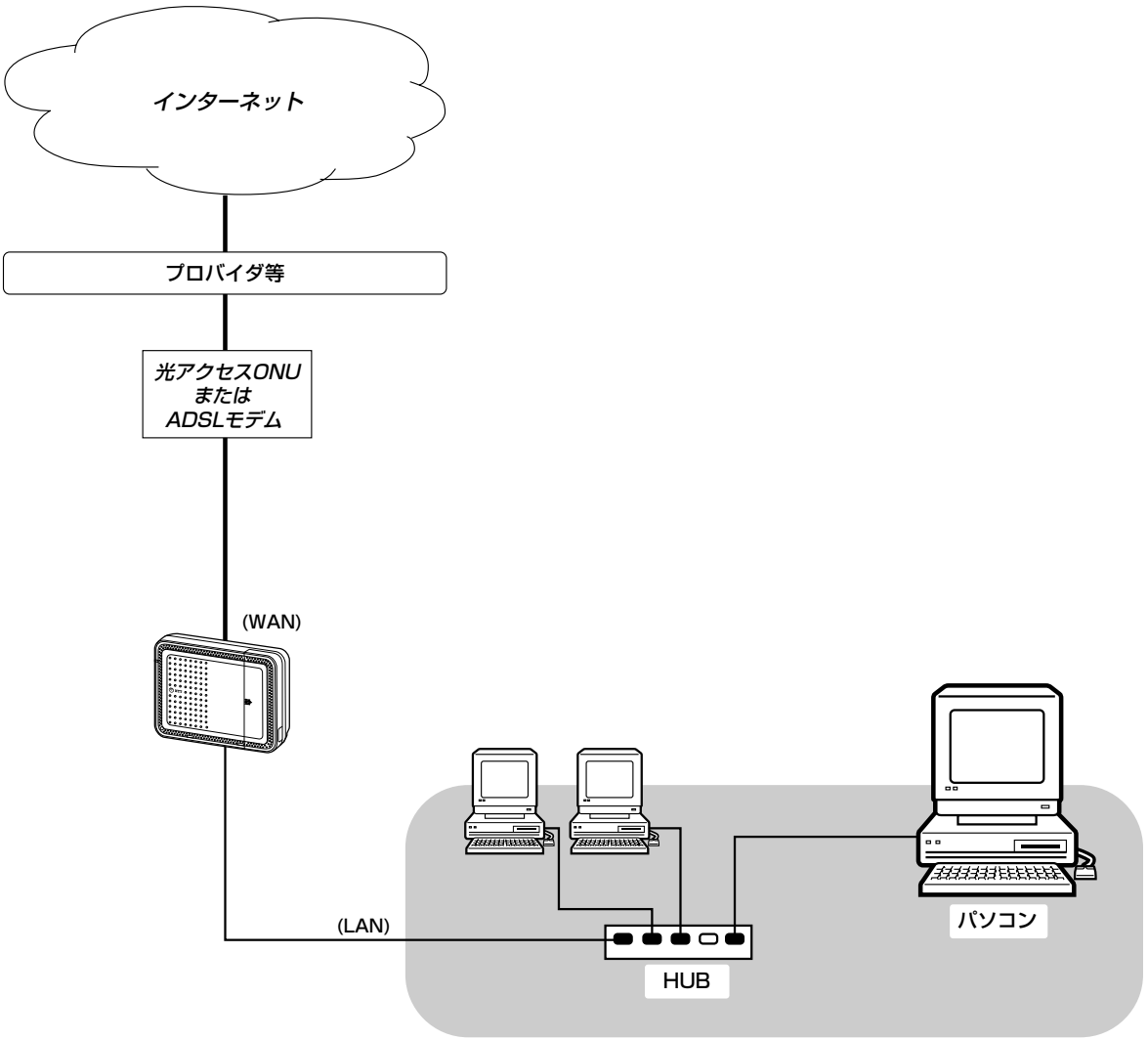
自動バージョンアップ機能
本商品が定期的にインターネット上の当社サーバと通信を行い、最新ファームウェアを確認した場合に自動的に本商品のプログラムをバージョンアップしたりまたはお客様へ通知することができます。

＊IP電話：音声データをIPネットワーク上でやりとりするための「VoIP(Voice Over Internet Protocol)」の技術を利用した電話です。

利用例

フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL接続

- プロバイダ等と地域IP網を利用した接続が可能です。
- 光アクセスONU、またはADSLモデムと10BASE-T／100BASE-TXで接続し、PPPoverEthernetによりフレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSLを利用可能です。



お知らせ

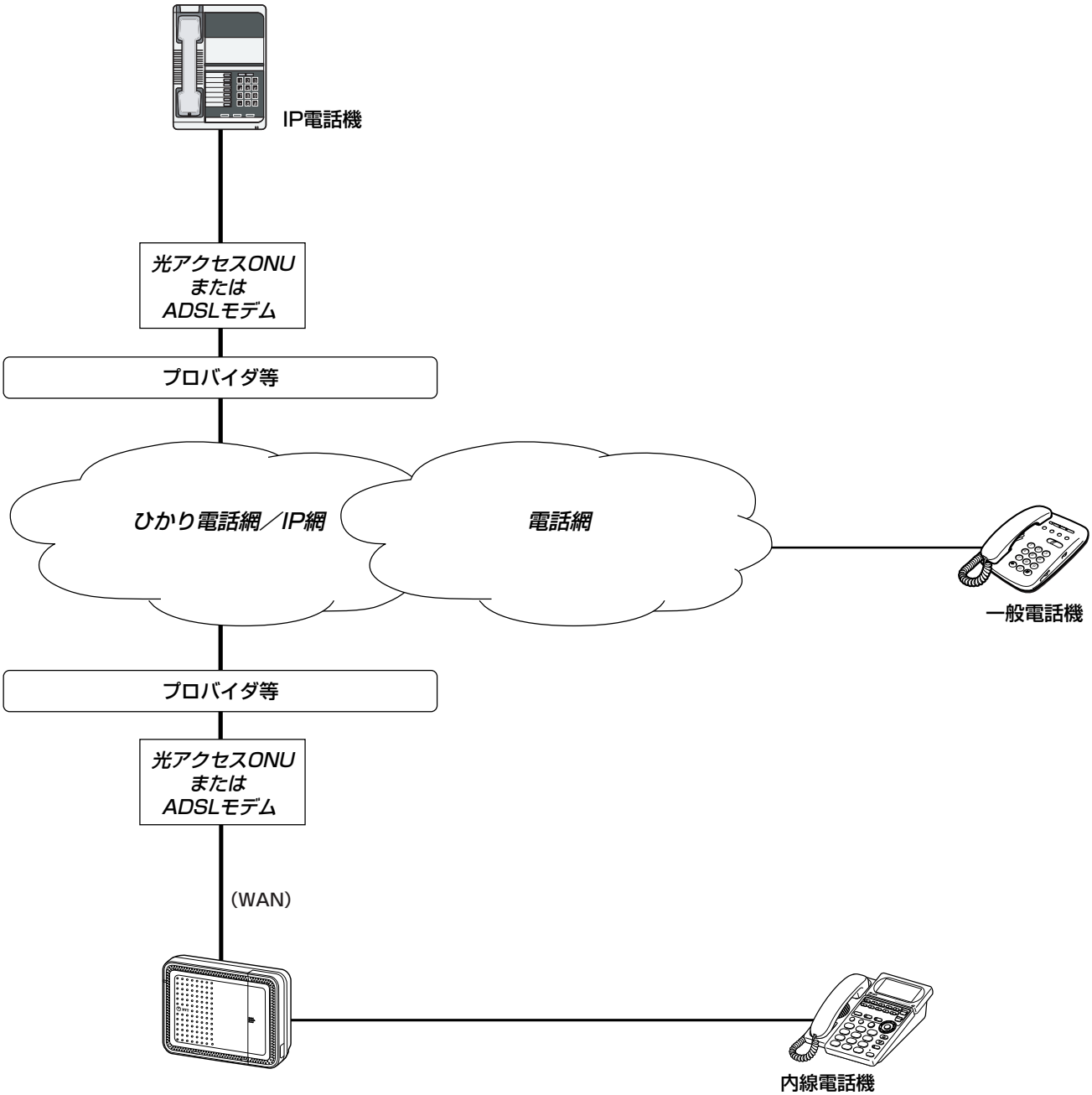
●フレッツ 光ネクスト／Bフレッツをご利用の場合、お住まいの地域がフレッツ 光ネクスト／Bフレッツの対象地域になっている必要があります。
また、当社へのフレッツ 光ネクスト／Bフレッツ回線のお申し込みと、フレッツ 光ネクスト／Bフレッツに対応したサービスプロバイダへのインターネット接続サービスのお申し込みが必要となります。

●フレッツ・ADSLをご利用の場合、お住まいの地域がフレッツ・ADSLの対象地域になっている必要があります。
また、当社へのADSL回線のお申し込みと、フレッツ・ADSLに対応したサービスプロバイダへのインターネット接続サービスのお申し込みが必要となります。

●回線の状態により、データ転送のスループットが落ちる場合があります。

IP電話サービス

- IP電話機能により、ひかり電話網／インターネット（IP網）を利用した音声通話（IP電話）が可能です。



お知らせ

●IP電話サービスを提供しているプロバイダ等との契約が必要です。

操作の流れ

本商品の接続から運用までの操作を以下に示します。

パソコンの設定を行う

パソコンから本商品の設定をしたり、インターネットにアクセスするためには、パソコン側でネットワークの設定を行う必要があります。(☛P85)

パソコンを起動する

↓

LANカード／ボードの設定をする

↓

TCP/IPのインストールを行う

↓

TCP/IPの設定を行う

↓

接続する

パソコンまたはハブとLANを接続する

パソコンまたはハブとLANを10BASE-Tケーブルまたは100BASE-TXケーブルにより接続します。

↓

光アクセスONUまたはADSLモデムとWANを接続する

光アクセスONUまたはADSLモデムとWANを10BASE-Tケーブルまたは100BASE-TXケーブルにより接続します。

↓

データ設定を行う

本商品の各種データ設定は、ブラウザソフトにより行います。

ブラウザを起動する

本商品と同一ネットワークに接続されたパソコンのブラウザソフトを起動します。
注意）使用するブラウザは以下のものを推奨します。
Windows Vista®：Internet Explorer® 7.0以降
Windows® XP(SP2)：Internet Explorer® 6.0(SP2)以降
Windows® 2000(SP4)：Internet Explorer® 6.0(SP1)以降
(2008年5月現在)
これ以外のブラウザを使用した場合、正しく動作しない場合があります。

↓

本商品にログインする

ブラウザソフトにより本商品へアクセスします。ブラウザの「アドレス」に本商品のIPアドレスを入力し、[Enter]キーを押します。
認証画面が表示されますので、パスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。(☛P15)
注意）• お買い求め時の本商品のIPアドレスは、「192.168.1.1」に設定されています。
• お買い求め時は、パスワードは設定されていません。

↓

各種設定を行う

メインメニューから「設定メニュー」をクリックすることにより、設定メニューが画面左側に表示されます。
設定したい項目のメニューをクリックすると、設定画面が表示されます。

↓

設定データを保存する

設定をすべて終了後、「設定データ保存」をクリックし、設定データの保存を行います。(☛P47)
注意）データの変更を行った場合は、必ず保存を行ってください。

↓

運用する

運用を開始します。(☛P49)

お知らせ

●本商品の設置、主装置設定は、工事担当者が行います。

本商品にログインするには

本商品の各種データ設定をするには本商品にログインする必要があります。
画面に従ってログインしてください。
お買い求め時はパスワードは設定されていません。

名称	説　明	設定範囲	初期値
パスワード	本商品にログインするためのパスワードを入力する。 大文字小文字も区別される。	最大16文字 （半角文字） （Ａ～Ｚ、ａ～ｚ、 0～9、-、/、_）	－

1 パソコンのブラウザを起動します。

2 ブラウザソフトの「アドレス」に本商品のIPアドレス「192.168.1.1」（お買い求め時）を入力し、[Enter] キーを押します。

認証画面が表示されます。

3 パスワードを入力します。

お知らせ

- ユーザ名は入力しないでください。入力した場合ログインできません。
- お買い求め時は、パスワードは設定されていません。
- 認証画面で「パスワードを保存する」のチェックボックスをチェックしても、入力したパスワードはパソコンに保存されません。次回、本商品にログインする場合は、再びパスワードを入力する必要があります。

4 「OK」ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックし、本商品にログインしてください。メインメニューが表示されます。

ワンポイント

●パスワードを設定・変更するには（☛P44）

お知らせ

- 使用するブラウザは以下のものを推奨します。
  Windows Vista®：Internet Explorer® 7.0以降
  Windows® XP（SP2）：Internet Explorer® 6.0（SP2）以降
  Windows® 2000（SP4）：Internet Explorer ® 6.0（SP1）以降
  （2008年5月現在）

インターネット接続を行うには

本商品へのデータ設定は、ネットワーク上のパソコンからブラウザソフトにより行います。日本語で表示されますので画面に従って各種データを設定していきます。
データ設定を行う場合は、本商品にログイン（☛P15）し、メインメニューから「設定メニュー」を選択します。

設定方法について

■設定方法

本商品の各種設定は、「設定メニュー」から行います。

お知らせ

- 電話機により本商品の保守を行うことができます。
  〈保守内容〉
  1.本商品のIPアドレスとサブネットマスクの確認
  2.本商品のパスワード初期化
  操作方法は、主装置の取扱説明書をご参照ください。
- ブラウザ画面が正しく表示されない場合などは、ブラウザソフトのJavaScriptの設定が有効になっているかご確認ください。
- ブラウザソフトのキャッシュが有効になっていると、最新の設定データが表示されない場合があります。そのときはブラウザソフトの「更新」ボタンにより表示し直してください。
- ウィルス監視ソフトが動作していると、設定画面が完全に表示されないことがあります。この場合はウィルス監視ソフトを停止してから設定を行ってください。
- 表示される画面は、使用するブラウザソフトにより多少異なります。
- 入力方法は以下のとおりです。
  - パソコンからの入力はASCII文字のみですので、シフトJIS（漢字、ひらがな、カナ）は入力しないでください。
  - 不正なデータを入力するとエラーが表示されます。再度設定する際は、設定前の状態を表示する場合があります。
  - データ設定中、「元に戻す」ボタンをクリックすることにより、設定の変更を取り消すことができます。
  - チェック欄をクリックするとチェックマークがつけられます。もう一度クリックするとチェックマークを外すことができます。
  - チェックマークは複数個つけることができます。
- 2台以上のパソコンから同時にデータ設定を行わないでください。
- Windows® XP（SP2）／Windows Vista® では、ブラウザソフトの「ポップアップブロック」の設定を無効にしてください。また、セキュリティレベルが「高」の場合も、「ポップアップブロック」の設定にかかわらず表示不可となるため、「高」にしないでください。

WANインタフェース設定

本商品のWANインタフェースに対する設定を行います。
IPアドレス割り当て方式には、以下の3つの方式があります。WANインタフェースに対する設定により設定できる割り当て方式が決まっています。

■PPPoE設定
- PPPoE認証 .....PPPoE認証でIPアドレスを割り当てる方式（WAN1～3）

■IPoE設定
- IP固定設定 .....固定IPアドレスを割り当てる方式（WAN4）
- IP自動取得 .....IPアドレスを自動取得で割り当てる方式（WAN5）

PPPoE設定とIPoE設定は、同時に有効とすることができます。ただし、IP固定設定とIP自動取得は、いずれか片方のみ有効となります。
「WANインタフェース設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「WANインタフェース」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → WANインタ フェース

■PPPoE認証でIPアドレスを割り当てる場合（WAN1～3）

Bフレッツ／フレッツ・ADSLを利用したインターネット接続をするには、PPPoE設定のインタフェース名を選択して、WANインタフェースの設定を行います。プロバイダ等との契約内容に合わせて各項目を設定してください。

名称	説　明	入力範囲	初期値
インタフェース名※	WANインタフェースの名称を設定する。 インタフェースの名称は、システム内で重複してはならない。	最大8文字（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	WAN1～WAN3
セッション※	この接続を有効にするか、無効にするかを選択する。	無効／有効	WAN1のみ有効
認証方式※	相手からの認証要求に対して認証方式を選択する。	なし／PAP／CHAP	WAN1のみPAP
接続ユーザ名※	プロバイダとの契約時に通知されるユーザ名（ログイン名、認証ID、ログインID、接続ID等）を設定する。	最大64文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	－
接続パスワード※	プロバイダとの契約時に通知されるパスワードを設定する。	最大64文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	－

※変更した設定は、次回の接続時に有効となります。

1 PPPoE設定の一覧から設定するインタフェース名（初期値：WAN1～3）をクリックします。

選択した「PPPoE設定」画面が表示されます。

（次ページへつづく）

インターネット接続を行うには

（前ページのつづき）

2 インタフェース名

必ずしも変更する必要はありません。接続先が分かりやすいようにプロバイダ名などに変更すると便利です。

3 セッション

有効にするか、無効にするかを選択します。

4 認証方式

プロバイダから指定された認証方式を選択します。

5 接続ユーザ名

プロバイダとの契約時に通知されるユーザ名（ログイン名、認証ID、ログインID、接続ID等）を入力します。

お知らせ

- 接続ユーザ名と接続パスワードの入力は必ず行ってください。

6 接続パスワード

プロバイダとの契約時に通知されるパスワードを入力します。

7 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ったあと、WANインタフェースに対する停止→起動の操作（☛P51）により、接続し直してください。
他のインタフェース（WAN1～3）を設定する場合は、手順1からを繰り返します。

■固定IPアドレスを割り当てる場合（WAN4）

IPアドレスがすでに割り当てられたネットワークに接続するには、IPoE設定のインタフェース名（IP固定設定）を選択して、WANインタフェースの設定を行います。

名称	説　明	入力範囲	初期値
インタフェース名	WANインタフェースの名称を設定する。 インタフェースの名称は、システム内で重複してはならない。	最大8文字（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	WAN4
セッション	この接続を有効にするか、無効にするかを選択する。	無効／有効	無効
IPアドレス	WANインタフェースのIPアドレスを設定する。	X.X.X.X （X：0～255、10進数）	－
サブネットマスク	WANインタフェースのサブネットマスクのビット数を設定する。	1～32、10進数 （bit）	－
デフォルトゲートウェイアドレス	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定する。	X.X.X.X （X：0～255、10進数）	－

1 IPoE設定の一覧から設定するインタフェース名（初期値：WAN4）をクリックします。

「IP固定設定」画面が表示されます。

2 インタフェース名

必ずしも変更する必要はありません。わかりやすい接続名などに変更すると便利です。

3 セッション

有効にするか、無効にするかを選択します。

お知らせ

●セッション設定で「有効」を選択した場合、IP自動取得（☛P20）のセッション設定は自動的に「無効」になります。

4 IPアドレス

IPアドレスを入力します。

5 サブネットマスク

サブネットマスクを入力します。

6 デフォルトゲートウェイアドレス

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

7 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ったあと、本商品の再起動（☛P57）を行ってください。

インターネット接続を行うには

■IPアドレスを自動取得する場合（WAN5）

WANインタフェースが接続されたネットワークでIPアドレスを自動取得するには、IPoE設定のインタフェース名（IP自動取得）を選択して、WANインタフェースの設定を行います。

名称	説　明	入力範囲	初期値
インタフェース名	WANインタフェースの名称を設定する。 インタフェースの名称は、システム内で重複してはならない。	最大8文字（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	WAN5
セッション	この接続を有効にするか、無効にするかを選択する。	無効／有効	無効
ホスト名	自動取得するときのホスト名を設定する。	最大32文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	BRUaaaaaaaa (a：本商品のWANインタフェースのMACアドレスの下4バイト分)

1 IPoE設定の一覧から設定するインタフェース名（初期値：WAN5）をクリックします。

「IP自動取得」画面が表示されます。

2 インタフェース名

必ずしも変更する必要はありません。わかりやすい接続名などに変更すると便利です。

3 セッション

有効にするか、無効にするかを選択します。

お知らせ

- セッション設定で「有効」を選択した場合、IP固定設定（☛P19）のセッション設定は自動的に「無効」になります。

4 ホスト名

ホスト名を入力します。

5 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ったあと、本商品の再起動（☛P57）を行ってください。

データ設定

LANインタフェース設定

本商品のLANインタフェースに対する設定を行います。
「LANインタフェース設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「LANインタフェース」を選択します。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → LANインタ フェース

名称	説　明	設定範囲	初期設定
インタフェース名	LANインタフェースの名称を設定する。 インタフェースの名称は、システム内で重複してはならない。	最大8文字（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	LAN1
IPアドレス	LANインタフェースのIPアドレスを設定する。	X.X.X.X （X:0～255、10進数）	192.168.1.1
サブネットマスク	LANインタフェースのサブネットマスクのビット数を設定する。	1～30、10進数（bit）	24

1 インタフェース名

必ずしも変更する必要はありません。わかりやすい接続名などに変更すると便利です。

2 IPアドレス

IPアドレスを入力します。

ワンポイント

●IPアドレスとサブネットマスクの設定について
本商品では、IPアドレスおよびサブネットマスクの設定を変更すると、変更された内容によってはアドレス割り付け設定（☛P25）を自動的に変更します。

3 サブネットマスク

サブネットマスクのビット数を入力します。

4 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ったあと、本商品の再起動（☛P57）およびパソコンの再起動を行ってください。

お知らせ

●以下のIPアドレスとサブネットマスクの組み合わせでご利用ください。

クラス	IPアドレス	サブネットマスク
クラスA	10.0.0.0 ～ 10.255.255.255	8 ～ 30
クラスB	172.16.0.0 ～ 172.31.255.255	16 ～ 30
クラスC	192.168.0.0 ～ 192.168.255.255	24 ～ 30

データ設定

UPnP設定

UPnP設定は、UPnP(Universal Plug and Play)を利用するインタフェースを選択します。
「UPnP設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「UPnP」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → UPnP

名称	説　明	設定範囲	初期設定
UPnP機能（IGD）利用接続先	UPnP（IGD）を利用するインタフェースを選択する。	なし／WAN1／WAN2／WAN3／WAN5	なし
UPnP機能（CP）	UPnP機能（CP）を有効にするか、無効にするかを選択する。	無効／有効	無効

1 UPnP機能（IGD）利用接続先

UPnP（IGD）を利用する接続先を選択します。

2 UPnP機能（CP）

有効にするか、無効にするかを選択します。

お知らせ

●UPnP機能（CP）設定で「有効」を選択した場合、以下のデータ設定が必要です。
- WAN4またはWAN5のセッション設定「有効」
- ルータ機能「無効」
- アドレス変換方式「しない」

3 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。
UPnP機能（IGD）利用接続先設定を変更した場合は、WANインタフェースに対する停止→起動の操作（☛P51）により、接続し直してください。

PPPoEブリッジ設定

PPPoEブリッジ機能とは、本商品のLANインタフェースに接続されているパソコンからPPPoEプロトコルで直接インターネットに接続し、パソコンにグローバルIPアドレスを取得することができる機能です。
「PPPoEブリッジ設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「PPPoEブリッジ」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → PPPoE ブリッジ

名称	説　明	設定範囲	初期設定
PPPoEブリッジ接続	PPPoEブリッジ接続を使用するか、しないかを選択する。	しない／する	しない

1

PPPoEブリッジ接続

接続するか、しないかを選択します。

ワンポイント

●**インターネット接続設定とPPPoEブリッジの併用**
PPPoEブリッジ接続により、インターネット接続中にフレッツ・スクウェアなどへLAN側からアクセスすることができます。

お知らせ

●PPPoEブリッジ接続と本商品のWAN接続を利用する場合、契約回線（Bフレッツ、フレッツ・ADSL）のセッション数制限により同時に利用できないことがあります。
●PPPoEブリッジによりフレッツ・スクウェアへ接続されているパソコンから、インターネットを同時に利用できないことがあります。
●パソコンからのPPPoEによる接続プロバイダと本商品の接続プロバイダが同じアカウントに設定されていると、同時に接続することができないことがあります。ご注意ください。

2

「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

データ設定

IPv6ブリッジ設定

IPv6ブリッジ機能とは、本商品のLAN/WANインタフェースに接続されているネットワーク機器同士でIPv6プロトコルによる通信を行うことができる機能です。
「IPv6ブリッジ設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「IPv6ブリッジ」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → IPv6 ブリッジ

名称	説　明	設定範囲	初期設定
IPv6ブリッジ接続	IPv6ブリッジ接続するか、しないかを選択する。	しない／する	しない

1 IPv6ブリッジ接続

IPv6ブリッジ接続を使用するか、しないかを選択する。

2 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

アドレス割り付け設定

アドレス割り付け機能は、LAN側に接続されているパソコンからの要求により設定されたIPアドレスの割り付けやサーバアドレス情報の通知を行います。また、固定割り付けテーブルを設定することにより、最大8つのIPアドレスを静的に割り付けることが可能です。

「DHCPサーバ設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「DHCPサーバ」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → DHCP サーバ

「固定割り付けテーブル設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「固定割り付けテーブル」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → 固定割り付 けテーブル

本商品のアドレス割り付け機能としては、次のデータを割り付けまたは通知します。

①Client Server-assigned IP address　：クライアントに割り付けるIPアドレス
②Server IP address (DHCP Server)　：本商品のIPアドレス
③Subnet mask　：本商品のサブネットマスク
④Gateway address　：ゲートウェイに設定されたIPアドレス
⑤Domain Name Server address　：本商品のIPアドレスまたはProxyDNS設定の通知DNSサーバアドレス
⑥NetBIOS over TCP/IP Name Server　：WINSサーバに設定されたIPアドレス

●DHCPサーバ設定

名称	説　明	設定範囲	初期設定
DHCPサーバ機能	アドレス割り付け機能を有効にするかどうかを選択する。	無効／有効	有効
割り付け先頭IPアドレス	クライアントに割り付けるIPアドレスの先頭を設定する。	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	192.168.1.2
割り付け数	割り付けIPアドレスで指定したアドレスから割り付けを行うアドレスの数を設定する。	1～64、10進数（個）	64
リース時間	クライアントに割り付けるIPアドレスの使用期限を設定する。「0」に設定された場合は無期限のリースとなる。	0～1000、10進数（時間）	24
プライマリWINSサーバアドレス	通知するプライマリWINSサーバIPアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	－
セカンダリWINSサーバアドレス	通知するセカンダリWINSサーバIPアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	－
デフォルトゲートウェイ	通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	192.168.1.1

データ設定

●固定割り付けテーブル設定（最大8個）

名称	説　明	設定範囲	初期設定
IPアドレス	静的に割り付けるIPアドレスを設定する。ここで設定するIPアドレスはアドレス割り付け設定の範囲内でも登録可能。	X.X.X.X （X:0～255、10進数）	－
ホスト名	IPアドレスを静的に割り付ける端末のホスト名を設定する。 MACアドレスを入力した場合は省略が可能。	最大32文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	－
MACアドレス	IPアドレスを静的に割り付ける端末のMACアドレスを設定する。 ホスト名を入力した場合は省略が可能。	XX:XX:XX:XX:XX:XX （X：0～F、16進数）	－

お知らせ

●アドレス割り付けの詳細については、「DHCPサーバによる動的アドレス割り付け」を参照してください。（☛P83）
●固定割り付けテーブルの設定は、ホスト名およびMACアドレスの設定により静的に割り付けられます。ホスト名のみの登録では割り付けが重複することがあります。

1 DHCPサーバ機能

アドレス割り付け機能を有効にするかどうかを選択します。

お知らせ

●DHCPサーバ機能「無効」を選択した場合は、以下の設定は無効になります。

2 割り付け先頭IPアドレス

クライアントに割り付けるIPアドレスの先頭を入力します。

お知らせ

●LANインタフェースのIPアドレスとサブネットマスクで設定されたサブネット外のIPアドレスは設定できません。

3 割り付け数

割り付け数を入力します。

4 リース時間

リース時間を入力します。

5 プライマリWINSサーバアドレスとセカンダリWINSサーバアドレス

通知するプライマリWINSサーバアドレスとセカンダリWINSサーバアドレスを入力します。
WINSサーバアドレスを通知しない場合は省略することができます。

6 デフォルトゲートウェイ

通知するデフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

7 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

固定割り付けテーブル

静的に割り付けるホスト名／MACアドレスとIPアドレスの組を入力します。

●新規に登録する場合

1 ルータ設定メニューで「固定割り付けテーブル」をクリックし、「新規」ボタンをクリックします。

2「固定割り付けテーブル設定」画面が表示されるので、各項目の入力を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
入力した内容が新規登録され、固定割り付けテーブルに追加されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●変更する場合

1 ルータ設定メニューで「固定割り付けテーブル」をクリックし、固定割り付けテーブルの「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

2「固定割り付けテーブル設定」画面が表示されるので、変更を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
変更した内容が固定割り付けテーブルに表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●削除する場合

1 ルータ設定メニューで「固定割り付けテーブル」をクリックし、固定割り付けテーブルの「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。

2「固定割り付けテーブル設定」画面が表示されるので、確認します。

3「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。

4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
テーブルの削除が反映された固定割り付けテーブルが表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

お知らせ

- 静的にIPアドレスを割り付ける場合には、固定割り付けテーブルへの設定が必要になります。
- IPアドレスは、アドレス割り付け設定で設定された範囲内での設定も可能です。ただし、LANインタフェースのIPアドレスとサブネットマスクで設定されたサブネット外のIPアドレスは無効となります。
- ホスト名／MACアドレスとIPアドレスの組は、最大8個まで設定することができます。
- 端末のMACアドレスは、接続されているLANカード／ボードに記載されています。詳しくは使用しているLANカード／ボードの取扱説明書を参照してください。
- IPアドレスの割り付けは、端末から通知されるホスト名、またはMACアドレスが一致した端末に割り付けられます。
- ホスト名とMACアドレスの両方が登録されている場合は、両方が一致する端末に割り付けられます。

お知らせ

- すでにDHCPサーバマシンがネットワークに接続されている場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「無効」に設定し、DHCPサーバマシン側で一括管理してください。
- 本商品を再起動したときは、DHCPサーバを利用しているパソコンを再起動してください。

データ設定

DNS設定

DNS機能は、ネットワーク端末のDNSサーバアドレスを本商品のIPアドレスに設定することにより、接続されている接続先のDNSサーバを使用してアドレス解決を行います。このため、パソコン側の設定を変更せずにアドレス解決が可能になります。
またホストテーブルにホスト名とIPアドレスを登録することにより一致するホスト名に対してDNSの代理応答を行います。
「ProxyDNS設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「ProxyDNS」をクリックします。

「ホストテーブル設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「ホストテーブル」をクリックします。

●ProxyDNS設定

名称	説　明	設定範囲	初期設定
ProxyDNS機能※	ProxyDNS機能を有効にするかどうかを選択する。	無効／有効	有効
問い合わせ先取得方法※	DNSの問い合わせを解決できないときに問い合わせを行う上位DNSサーバアドレスの取得方法を選択する。固定IPアドレスの場合は、設定されたDNSサーバアドレスへ問い合わせを行う。自動取得の場合は、自動取得先インタフェースから通知されるDNSサーバアドレスへ問い合わせを行う。	固定IPアドレス／自動取得	自動取得
自動取得先インタフェース※	自動取得先インタフェースを選択する。 問い合わせ先取得方法が自動取得の場合に設定する。	WAN1／WAN2／WAN3／WAN5	WAN1
問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレス※	DNS問い合わせ先のプライマリDNSサーバアドレスを設定する。 問い合わせ先取得方法が固定IPアドレスの場合に設定する。	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	－
問い合わせ先セカンダリDNSサーバアドレス※	DNS問い合わせ先のセカンダリDNSサーバアドレスを設定する。 問い合わせ先取得方法が固定IPアドレスの場合に設定する。（省略可）	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	－
DNSサーバアドレス通知※	ProxyDNS機能が無効の場合に、アドレス割り付け機能によりDNSサーバのIPアドレス通知をするかどうかを選択する。	しない／する	しない
通知プライマリDNSサーバアドレス※	アドレス割り付け機能により通知するプライマリDNSサーバアドレスを設定する。DNSサーバアドレス通知が「する」の場合に設定する。	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	－
通知セカンダリDNSサーバアドレス※	アドレス割り付け機能により通知するセカンダリDNSサーバアドレスを設定する。DNSサーバアドレス通知が「する」の場合に設定する。（省略可）	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	－

※変更した設定は、次回の接続時に有効となります。

●ホストテーブル設定（最大32個）

名称	説　明	設定範囲	初期設定
ホスト名	テーブルに登録するホスト名を設定する。	最大32文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	－
IPアドレス	ホスト名に対して割り付けるIPアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0～255、10進数)	－

1 ProxyDNS機能

ProxyDNS機能を有効にするかどうかを選択します。

お知らせ

- ProxyDNS機能「無効」を選択した場合は、問い合わせ先取得方法、問い合わせ先プライマリDNSサーバ、問い合わせ先セカンダリDNSサーバのIPアドレスの設定は無効になります。

2 問い合わせ先取得方法

DNS問い合わせ方法を選択します。

お知らせ

- 問い合わせ方法として「自動取得」を選択した場合、接続先のプロバイダ等によってはDNSサーバアドレスを取得できない場合があります。この場合、「固定IPアドレス」を選択し、プロバイダ等から指定されたDNSサーバアドレスを「問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレス」に設定します。

3 自動取得先インタフェース

問い合わせ先取得方法で「自動取得」を選択した場合、WANインタフェース名（☛P17）を選択します。

4 問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレスと問い合わせ先セカンダリDNSサーバアドレス

- 問い合わせ先取得方法で「固定IPアドレス」を選択した場合、問い合わせ先のプライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。セカンダリDNSサーバの設定は省略することができます。
- プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバの設定は、問い合わせ先取得方法を「固定IPアドレス」に設定したときのみ有効です。

5 DNSサーバアドレス通知

ProxyDNS機能が無効の場合に、アドレス割り付け機能によりDNSサーバアドレス通知をするかどうかを選択します。

お知らせ

- ProxyDNS機能が有効な場合は、本商品のIPアドレスを通知します。
- DNSサーバアドレス通知「しない」を選択した場合は、通知プライマリDNSサーバアドレスと通知セカンダリDNSサーバアドレスの設定は無効となります。

6 通知プライマリDNSサーバアドレスと通知セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレス通知「する」を選択した場合、通知するプライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。セカンダリDNSサーバの設定は省略することができます。

（次ページへつづく）

データ設定

（前ページのつづき）

7 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ったあと、WANインタフェースに対する停止→起動の操作（☛P51）により、接続し直してください。

8 ホストテーブル

- DNS代理応答を行うホスト名とIPアドレスの組を入力します。
- ホスト名とIPアドレスの組は、最大32個まで設定することができます。

●新規に登録する場合

1 ルータ設定メニューで「ホストテーブル」をクリックし、「新規」ボタンをクリックします。

2「ホストテーブル設定」画面が表示されるので、各項目の入力を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
入力した内容が新規登録され、ProxyDNSホストテーブルに追加されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●変更する場合

1 ルータ設定メニューで「ホストテーブル」をクリックし、ProxyDNSホストテーブルの「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

2「ホストテーブル設定」画面が表示されるので、変更を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
変更した内容がProxyDNSホストテーブルに表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●削除する場合

1 ルータ設定メニューで「ホストテーブル」をクリックし、ProxyDNSホストテーブルの「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。

2「ホストテーブル設定」画面が表示されるので、確認します。

3「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。

4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
テーブルの削除が反映されたProxyDNSホストテーブルが表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

お知らせ

●ソースルーティングにより複数のプロバイダ等と接続する場合、ProxyDNS機能を使用すると正しくルーティングされないことがあります。

アドレス変換設定

■NAT設定

WANインタフェース設定（IP固定設定を除く）ごとにアドレス変換方式、グローバルIPアドレスとローカルIPアドレスの変換テーブルを設定します。各WANインタフェースにIPアドレス変換テーブルは、最大16個まで設定できます。IPアドレス変換機能の詳細は「IPアドレス変換機能について」（☛P81）を参照してください。「NAT設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「アドレス変換」をクリックします。

メイン メニュー ➡ 設定 メニュー ➡ ルータ設定 メニュー ➡ アドレス 変換

名称	説　明	設定範囲	初期設定
インタフェース名	WANインタフェース設定で設定した名称が表示される。（☛P17）	−	WAN1／WAN2／WAN3／WAN5
IPアドレス変換方式※	IPアドレスの変換方式を選択する。	しない／LAN型変換／端末型変換	WAN1のみ端末型変換
割り当てられたIPアドレス※	LAN型変換時に本商品が使用するグローバルIPアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	−
IPアドレス変換テーブル※	グローバルIPアドレスとローカルIPアドレスの変換を設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	−

※変更した設定は、次回の接続時に有効となります。

1 IPアドレス変換方式

IPアドレス変換方式を選択します。

LAN型変換：グローバルIPアドレスをプロバイダ契約時に割り当てられるとき

端末型変換：グローバルIPアドレスをプロバイダ接続時に割り当てられるとき

お知らせ

- IPアドレス変換方式「しない」を選択した場合は、以下の設定は無効となります。
- UPnP機能（CP）設定で「有効」を選択した場合、WAN4/WAN5インタフェースに対しての本設定を「しない」以外にすることはできません。

2 割り当てられたIPアドレス

LAN型変換時にプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスを入力します。

お知らせ

- IPアドレス変換方式「LAN型変換」を選択した場合のみ有効です。

3 IPアドレス変換テーブル

LAN型変換時にプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスと対応して変換させるローカルIPアドレスを入力します。

お知らせ

- IPアドレス変換方式「LAN型変換」を選択した場合のみ有効です。

4 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ったあと、WANインタフェースに対する停止→起動の操作（☛P51）により、接続し直してください。

データ設定

■静的NAPT設定

外部からのコネクション確立が必要なサービスを利用する場合、IPアドレス変換機能によりコネクションの確立ができない場合があります。このようなときは、外部からのコネクション確立が必要なサービスに対して、静的NAPT設定にTCP/UDPプロトコル、およびポート番号から内部のローカルIPアドレスへの変換を行うように設定することで、外部からのコネクションを確立することができます。最大16個まで設定可能です。
「静的NAPT設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「アドレス変換」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → アドレス 変換

名称	説　明	設定範囲	初期設定
プロトコル	変換するプロトコルを選択する。	TCP ／ UDP ／ TCP/UDP	TCP
開始ポート番号	TCPまたはUDPの開始ポート番号を設定する。	0～65535、10進数	－
終了ポート番号	TCPまたはUDPの終了ポート番号を設定する。	0～65535、10進数	－
IPアドレス	上記のプロトコルおよびポート番号と一致したパケットに対してアドレス変換を行うローカルIPアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	－

お知らせ

●変換するテーブルのIPアドレスは固定で設定される必要があるため、アドレス割り付け機能を利用しているときは、必ず［固定割り付けテーブル］で静的にIPアドレスを割り付けるように設定してください。

■静的NAPTテーブルを設定するには

●新規に登録する場合

1 ルータ設定メニューで「アドレス変換」をクリックし、「新規」ボタンをクリックします。

2「静的NAPT設定」画面が表示されるので、各項目の入力を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
入力した内容が新規登録され、静的NAPTテーブルに追加されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●変更する場合

1 ルータ設定メニューで「アドレス変換」をクリックし、静的NAPTテーブルの「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

2「静的NAPT設定」画面が表示されるので、変更を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
変更した内容が静的NAPTテーブルに表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●削除する場合

1 ルータ設定メニューで「アドレス変換」をクリックし、静的NAPTテーブルの「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。

2「静的NAPT設定」画面が表示されるので、確認します。

3「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。

4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
テーブルの削除が反映された静的NAPTテーブルが表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

1 プロトコル

プロトコルを選択します。

2 開始ポート番号と終了ポート番号

開始ポート番号と終了ポート番号を入力します。

3 IPアドレス

IPアドレスを入力します。

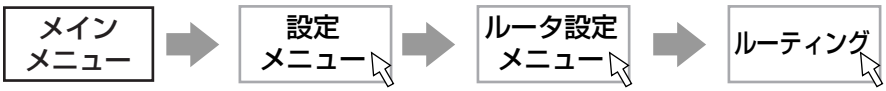
4 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

データ設定

ルーティング設定

ルーティング設定では、登録されたIPアドレスによるルーティングの設定を行います。ルーティング用テーブルは、デフォルトルートを1個、スタティックIPルーティングを16個、ソースルーティングを4個、ドメインルーティングを8個まで設定することができます。
「ルーティング設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「ルーティング」をクリックします。



●デフォルトルート設定

名称	説　明	設定範囲	初期設定
ルータ機能	ルーティングを行うかどうかを選択する。	無効／有効	有効
ダイナミックルーティング機能※	動的（ダイナミック）ルーティングを行うかどうかを選択する。	無効／有効	無効
ルーティング情報送出※	ルーティング情報をLANインタフェース側に送出するかどうかを選択する。	無効／有効	無効
経路先	経路先の指定方法としてIPアドレスまたはインタフェースのどちらを指定するかを選択する。	なし／固定IPアドレス／LAN1／WAN1／WAN2／WAN3／WAN4／WAN5	WAN1
経路先IPアドレス	経路先のIPアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	－
ホップ数	経路先との距離（コスト／ホップ数）を設定する。	1～16、10進数	1

※変更した設定は、次回の接続時に有効となります。

●スタティックIPルーティング設定（最大16個）

名称	説　明	設定範囲	初期設定
IPアドレス	ルーティングする送信先IPアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	－
サブネットマスク	ルーティングする送信先IPアドレスのサブネットマスクのビット数を設定する。	1～32、10進数（bit）	－
経路先	経路先の指定方法としてIPアドレスまたはインタフェースのどちらを指定するかを選択する。	固定IPアドレス／LAN1／WAN1／WAN2／WAN3／WAN4／WAN5	固定IPアドレス
経路先IPアドレス	経路先のIPアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	－
ホップ数	経路先との距離（コスト／ホップ数）を設定する。	1～16、10進数	－

●ソースルーティング設定（最大4個）

名称	説　明	設定範囲	初期設定
IPアドレス	ルーティングする送信元IPアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	－
サブネットマスク	ルーティングする送信元IPアドレスのサブネットマスクのビット数を設定する。	1～32、10進数（bit）	－
経路先	経路先の指定方法としてIPアドレスまたはインタフェースのどちらを指定するかを選択する。	固定IPアドレス／LAN1／WAN1／WAN2／WAN3／WAN4／WAN5	固定IPアドレス
経路先IPアドレス	経路先のIPアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	－
ホップ数	経路先との距離（コスト／ホップ数）を設定する。	1～16、10進数	－

●ドメインルーティング設定（最大8個）

名称	説　明	設定範囲	初期設定
ドメイン名	ルーティングを対象とするドメイン名を設定する。	最大128文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	－
経路先	経路先を選択する。	LAN1／WAN1／WAN2／WAN3／WAN4／WAN5	LAN1
DNSサーバアドレス	ドメイン名の問い合わせを行うDNSサーバアドレスを設定する。	X.X.X.X（X:0～255、10進数）	－
ホップ数	経路先と距離（コスト／ホップ数）を設定する。	1～16、10進数	－

■ルーティング設定を行うには

●デフォルトルートを設定する場合

1 ルータ設定メニューで「ルーティング」をクリックします。

2「ルーティング設定」画面が表示されるので、各項目の入力を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティングを新規に登録する場合

1 ルータ設定メニューで「ルーティング」をクリックし、登録したいルーティングの「新規」ボタンをクリックします。

2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
入力した内容が新規登録され、ルーティングテーブルに追加されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティングを変更する場合

1 ルータ設定メニューで「ルーティング」をクリックし、ルーティングテーブルの「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

2 設定画面が表示されるので、変更を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
変更した内容がルーティングテーブルに表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティングを削除する場合

1 ルータ設定メニューで「ルーティング」をクリックし、ルーティングテーブルの「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。

2 設定画面が表示されるので、確認します。

3「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。

4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
テーブルの削除が反映されたルーティングテーブルが表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

お知らせ

●設定の詳細については、次ページ以降の「デフォルトルートの場合」、「スタティックIPルーティングの場合」、「ソースルーティングの場合」、「ドメインルーティングの場合」をご覧ください。

データ設定

■デフォルトルートの場合

1 ルータ機能

ルータ機能を有効にするかどうかを選択します。

お知らせ

- ルータ機能「無効」を選択した場合は、以下の設定は無効になります。
- UPnP機能（CP）設定で「有効」を選択した場合、本設定を「有効」にすることはできません。

2 ダイナミックルーティング機能

ダイナミックルーティング機能を有効にするかどうかを選択します。

3 ルーティング情報送出

ルーティング情報送出を有効にするかどうかを選択します。

お知らせ

- ダイナミックルーティング機能「有効」を選択した場合のみ有効です。

4 経路先

- 経路先を選択します。
- 他のルーティング設定でルーティングされなかったパケットは、ここで選択した経路先へルーティングされます。

5 経路先IPアドレス

経路先を「固定IPアドレス」に設定した場合は、経路先IPアドレスを入力します。

お知らせ

- 経路先IPアドレスの設定は、経路先を「固定IPアドレス」に設定した場合のみ有効です。

6 ホップ数

ホップ数を入力します。

7 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。なお、ダイナミックルーティング機能、ルーティング情報送出の設定を変更した場合は、WANインタフェースに対する停止→起動の操作（☛P51）により、接続し直してください。

■スタティックIPルーティングの場合

1 IPアドレス

- ルーティングを行う送信先IPアドレスを入力します。
- ここで設定した送信先IPアドレスあてのパケットを本商品が受信すると、「経路先」で設定したインタフェースへルーティングします。

2 サブネットマスク

ルーティングを行う送信先IPアドレスのサブネットマスクのビット数を入力します。

3 経路先

経路先を選択します。

4 経路先IPアドレス

経路先を「固定IPアドレス」に設定した場合は、経路先IPアドレスを入力します。

お知らせ

- 経路先IPアドレスの設定は、経路先を「固定IPアドレス」に設定した場合のみ有効です。

5 ホップ数

ホップ数を入力します。

6 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

データ設定

■ソースルーティングの場合

1 IPアドレス

- ルーティングを行う送信元IPアドレスを入力します。
- ここで設定した送信元IPアドレスからのパケットを本商品が受信すると、「経路先」で設定したインタフェースへルーティングします。パソコンごとに、利用するプロバイダ等を変更することなどができます。

2 サブネットマスク

ルーティングを行う送信元IPアドレスのサブネットマスクのビット数を入力します。

3 経路先

経路先を選択します。

4 経路先IPアドレス

経路先を「固定IPアドレス」に設定した場合は、経路先IPアドレスを入力します。

お知らせ

●経路先IPアドレスの設定は、経路先を「固定IPアドレス」に設定した場合のみ有効です。

5 ホップ数

ホップ数を入力します。

6 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

お知らせ

●ソースルーティングにより複数のプロバイダ等と接続する場合、ProxyDNS機能を使用すると正しくルーティングされないことがあります。

■ドメインルーティングの場合

1 ドメイン名

ルーティングの対象とするドメイン名を入力します。

2 経路先

経路先を選択します。

3 DNSサーバアドレス

ドメイン名の問い合わせを行うDNSサーバアドレスを入力します。

4 ホップ数

ホップ数を入力します。

5 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

お知らせ

- お使いのパソコンが本商品のProxyDNS機能を利用しない場合は、ドメインルーティングがご利用になれません。
- お使いのパソコンや本商品にDNS問い合わせ結果が保存されている場合は、ドメインルーティングが正常に動作しないことがあります。このような場合は、以下の操作によりDNS問い合わせ結果をクリアしてください。
  - パソコンを再起動する
  - 本商品のDNSキャッシュテーブルをクリアする（☛P53）

データ設定

フィルタリング設定

IPパケットのフィルタリングは、すべてのインタフェース／LAN／WANに対して設定することができます。あらかじめ登録しておいた最大32個のフィルタリング設定から選択します。フィルタリングは、送信先IPアドレス、送信元IPアドレス、プロトコルID、送信先ポート、送信元ポート、TCPコネクションフラグごとに設定することができます。またフィルタリングするパケットの方向、およびフィルタリングの設定内容と一致した場合の動作の設定を行います。フィルタリングの動作の詳細については「フィルタリングについて」（☛P80）を参照してください。

「フィルタリング設定」画面を表示するには、ルータ設定メニューで「フィルタリング」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → ルータ設定 メニュー → フィルタ リング

名称	説　明	設定範囲	初期設定
送信先IPアドレス	フィルタリングするパケットの送信先IPアドレスを設定する。 送信先IPアドレス指定「する」を選択した場合は、送信先IPアドレス（X.X.X.X、X：0～255、10進数）とサブネットマスクのビット数（1～32）を設定する。	しない／する	しない
送信元IPアドレス	フィルタリングするパケットの送信元IPアドレスを設定する。 送信元IPアドレス指定「する」を選択した場合は、送信元IPアドレス（X.X.X.X、X：0～255、10進数）とサブネットマスクのビット数（1～32）を設定する。	しない／する	しない
プロトコルID	フィルタリングするパケットのプロトコルIDを設定する。 「その他」を選択した場合は、プロトコルID（0～255）を設定する。	しない／TCP／UDP／その他	しない
送信先ポート	フィルタリングするパケットの送信先ポートを設定する。 「その他」を選択した場合は、以下のように送信先ポートの範囲指定（X）を設定する。 ・プロトコルID：TCP ／ UDP ／ TCP/UDP ・範囲設定　：ポート番号＝X　（一致） ポート番号＞X　（小さい） ポート番号＜X　（大きい） ポート番号＜X＜ポート番号　（範囲） ※ポート番号は、0～65535の範囲で設定する。	しない／FTP／TELNET／DNS／GOPHER／HTTP／HTTPS／POP3／NetBIOS／SNMP／SMTP／NNTP／NTP／その他	しない
送信元ポート	フィルタリングするパケットの送信元ポートを設定する。 「その他」を選択した場合は、以下のように送信元ポートの範囲指定（X）を設定する。 ・プロトコルID：TCP ／ UDP ／ TCP/UDP ・範囲設定　：ポート番号＝X　（一致） ポート番号＞X　（小さい） ポート番号＜X　（大きい） ポート番号＜X＜ポート番号　（範囲） ※ポート番号は、0～65535の範囲で設定する。	しない／FTP／TELNET／DNS／GOPHER／HTTP／HTTPS／POP3／NetBIOS／SNMP／SMTP／NNTP／NTP／その他	しない
TCPコネクションフラグ	TCPコネクションフラグによるフィルタリングを設定する。	FIN／SYN／RST／PSH／ACK／URG	－
フィルタリング方向	フィルタリングするパケットの方向を選択する。	双方向／受信／送信	双方向
フィルタリング種別	設定内容と一致した場合の動作を選択する。	フォワーディング／フィルタリング	フィルタリング
フィルタリング設定テーブル	すべてのインタフェース／LAN1／WAN1～WAN5に対して、設定したフィルタリングを行うかどうかを設定する。	すべてのインタフェース／LAN1／WAN1～WAN5	－

■フィルタリング設定をするには

●新規に登録する場合

1 ルータ設定メニューで「フィルタリング」をクリックし、「新規」ボタンをクリックします。

2「フィルタリング設定」画面が表示されるので、各項目の入力を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
入力した内容が新規登録され、フィルタリング設定テーブルに追加されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●変更する場合

1 ルータ設定メニューで「フィルタリング」をクリックし、フィルタリング設定テーブルの「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

2「フィルタリング設定」画面が表示されるので、変更を行います。

3「設定」ボタンをクリックします。
変更した内容がフィルタリング設定テーブルに表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

●削除する場合

1 ルータ設定メニューで「フィルタリング」をクリックし、フィルタリング設定テーブルの「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。

2「フィルタリング設定」画面が表示されるので、確認します。

3「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。

4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
テーブルの削除が反映されたフィルタリング設定テーブルが表示されます。
■設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ってください。

1 送信先IPアドレス

- 送信先IPアドレス指定をするかどうかを選択します。
- 送信先IPアドレス指定「する」を選択した場合は、送信先IPアドレスとサブネットマスクのビット数を入力します。

お知らせ

●送信先IPアドレス指定「しない」を選択した場合、すべての送信先IPアドレスがフィルタリング設定の対象となります。

2 送信元IPアドレス

- 送信元IPアドレス指定をするかどうかを選択します。
- 送信元IPアドレス指定「する」を選択した場合は、送信元IPアドレスとサブネットマスクのビット数を入力します。

お知らせ

●送信元IPアドレス指定「しない」を選択した場合、すべての送信元IPアドレスがフィルタリング設定の対象となります。

（次ページへつづく）

データ設定

（前ページのつづき）

3 プロトコルID

- プロトコルID指定を選択します。
- プロトコルID指定「その他」を選択した場合は、プロトコルIDを入力します。

お知らせ

●プロトコルID指定「しない」を選択した場合、すべてのプロトコルIDがフィルタリング設定の対象となります。

4 送信先ポート

- 送信先ポート指定を選択します。
- 送信先ポート指定「その他」を選択した場合は、プロトコルIDと送信先ポート範囲を選択します。

お知らせ

●送信先ポート指定「しない」を選択した場合、すべての送信先ポートがフィルタリング設定の対象となります。

●送信先ポート指定「その他」、送信先ポート範囲「<X<」を選択した場合は、「<X<」の前後の入力欄はともに入力してください。

5 送信元ポート

- 送信元ポート指定を選択します。
- 送信元ポート指定「その他」を選択した場合、プロトコルIDと送信元ポート範囲を選択します。

お知らせ

●送信元ポート指定「しない」を選択した場合、すべての送信元ポートがフィルタリング設定の対象となります。

●送信元ポート指定「その他」、送信元ポート範囲「<X<」を選択した場合は、「<X<」の前後の入力欄はともに入力してください。

6 TCPコネクションフラグ

フィルタリングするTCPコネクションフラグを選択します。

お知らせ

●複数選択した場合は、チェックしたすべてのフラグに一致したパケットを、一致と判断します。

7 フィルタリング方向

フィルタリング方向を選択します。

8 フィルタリング種別

フィルタリング種別を選択します。

ワンポイント

●**フィルタリング種別について（☛P80）**

フィルタリング設定テーブルのフィルタリング種別について以下に示します。テーブルの検索も以下の順番により行われます。

①フォワーディング：条件に一致したパケットはすべてフォワーディング（通過）します。

②フィルタリング：条件に一致したパケットをフィルタリング（破棄）します。

フィルタリング設定テーブルで複数のフィルタリング設定を選択した場合は、フィルタリング種別が「フォワーディング」、「フィルタリング」の順番に検索を行います。

※なお、いずれの設定にも一致しないパケットについてはすべてフォワーディングされます。

9 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

お知らせ

●フィルタリングのお買い求め時の設定は、LANインタフェースに対してNetBIOS／DCE準拠RPC／ダイレクト・ホスティングSMBサービスのフィルタが設定されています。

パスワードを設定するには

ブラウザからの保守を行うためのパスワードを設定します。
「パスワード設定」画面を表示するには、設定メニューで「一般設定」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → 一般設定

名称	説明	設定範囲	初期設定
古いパスワード	現在設定されているパスワードを入力する。	最大16文字（半角文字）（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	−
新しいパスワード	新しく設定するパスワードを入力する。	最大16文字（半角文字）（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	−
確認	新しいパスワードを確認のため再入力する。	最大16文字（半角文字）（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	−

1 古いパスワード

古いパスワードを入力します。

2 新しいパスワード

新しいパスワードを入力します。

3 確認

確認のため新しいパスワードを再入力します。

お知らせ

●ブラウザからの保守を行うためには、必ずパスワードを設定してください。パスワードは、最大16文字の範囲で設定します。

4 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ってください。

お知らせ

●設定データ保存を行ったとき認証画面が表示されますので、変更した新しいパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。その後、表示された画面の「OK」ボタンをクリックしてください。
●お買い求め時は、パスワードは設定されていません。

自動バージョンアップ設定

自動バージョンアップ機能とは、本商品が定期的に当社サーバと通信を行い、最新ファームウェアを確認した場合に自動的にバージョンアップまたはお客様へ通知する機能です。
ファームウェアとは本商品を動かすプログラム（ソフトウェア）のことで、次の2種類のファームウェアがあります。

- 通常ファームウェア：機能・性能を向上したファームウェア
- 重要ファームウェア：特に重要な機能・性能を向上させたファームウェア

それぞれについてのバージョンアップの動作(方法)を、「通常ファームウェア更新方法」、「重要ファームウェア更新方法」で設定します。
「自動バージョンアップ設定」画面を表示するには、設定メニューで「自動バージョンアップ設定」をクリックします。

メイン メニュー → 設定 メニュー → 自動バージョン アップ設定

名称	説　明	設定範囲	初期設定
通常ファームウェア更新方法	通常ファームウェアに対する動作を選択する。	無効／ユーザ通知／自動更新	無効
重要ファームウェア更新方法	重要ファームウェアに対する動作を選択する。	無効／ユーザ通知／自動更新	自動更新
自動更新時刻	自動更新の場合にバージョンアップを行う時刻を設定する。	00：00～23：59	登録なし
バージョンアップお知らせ用URL	バージョンアップお知らせ用サーバのアドレスを設定する。	半角英数字記号 128文字	http://www.cpeinfo.jp/

お知らせ

●自動バージョンアップ機能を利用するには、サービスプロバイダへのインターネット接続サービスのお申し込みが必要となります。

1 通常ファームウェア更新方法

インターネット上のサーバに通常ファームウェアがある場合の動作を選択します。

ワンポイント

●**更新方法について**

自動バージョンアップ機能の更新方法について以下に示します。

①無効：何もしません。

②ユーザ通知：本商品のブラウザトップ画面、プログラムバージョンアップの自動バージョンアップ状態表示により更新プログラムがあることを確認することができます。ブラウザからの操作によりダウンロード／更新を行い、再起動を実行後にプログラムが有効となります。（☛P58）

③自動更新：自動更新時刻に設定された時刻（設定されていない場合はAM2:00＋1～60分のランダム時間）にダウンロード／更新を行い、IP電話による通話をしていないときに自動的に再起動します。

（次ページへつづく）

自動バージョンアップ設定

（前ページのつづき）

2 重要ファームウェア更新方法

インターネット上のサーバに重要ファームウェアがある場合の動作を選択します。

お知らせ

●重要ファームウェアのバージョンアップを行わない場合、本来の機能・性能を発揮できない場合があります。

3 自動更新時刻

更新方法が自動更新の場合に、自動的にダウンロードを行う時刻を設定します。
設定されていない場合はAM2:00＋1～60分のランダム時間にダウンロードを行います。

お知らせ

●自動更新時刻の前に、お客様が手動でバージョンアップを行うこともできます。

4 バージョンアップお知らせ用URL

インターネット上のサーバのURLを設定します。

お願い

●初期値のままご利用ください。変更すると自動バージョンアップ機能をご利用できなくなります。

5 「設定」ボタンをクリックします。

設定を有効にするために「設定」ボタンをクリックし、設定データ保存（☛P47）を行ったあと、本商品の再起動（☛P57）を行ってください。

お願い

●バージョンアップ中は、絶対に下記の操作を行わないでください。故障の原因となることがあります。
＊本商品を再起動する。
＊本商品の「WANインタフェースの停止」をする。
＊主装置の電源を切る。
＊パソコンの電源を切る。

設定データを保存するには

設定データを変更した場合は、必ず設定データ保存を行ってください。
設定データ保存を行うまで、変更されたデータは本商品に保存されません。

メイン メニュー → 設定 メニュー → 設定データ 保存

1 設定メニューで「設定データ保存」をクリックします。

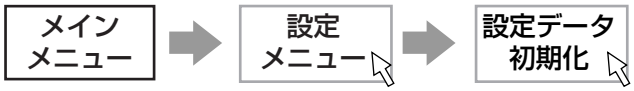
設定データ保存の確認画面が表示されます。

2 「OK」ボタンをクリックします。

すべての設定データを本商品へ保存します。

設定データを初期化するには

設定データの初期化は、設定データを工場出荷時の初期値に戻します。



1 メインメニューで「設定メニュー」をクリックします。

設定メニューが表示されます。

2 設定メニューで「設定データ初期化」をクリックします。

設定データ初期化の確認画面が表示されます。

3 「OK」ボタンをクリックします。

設定データ初期化結果画面が表示されます。

ワンポイント

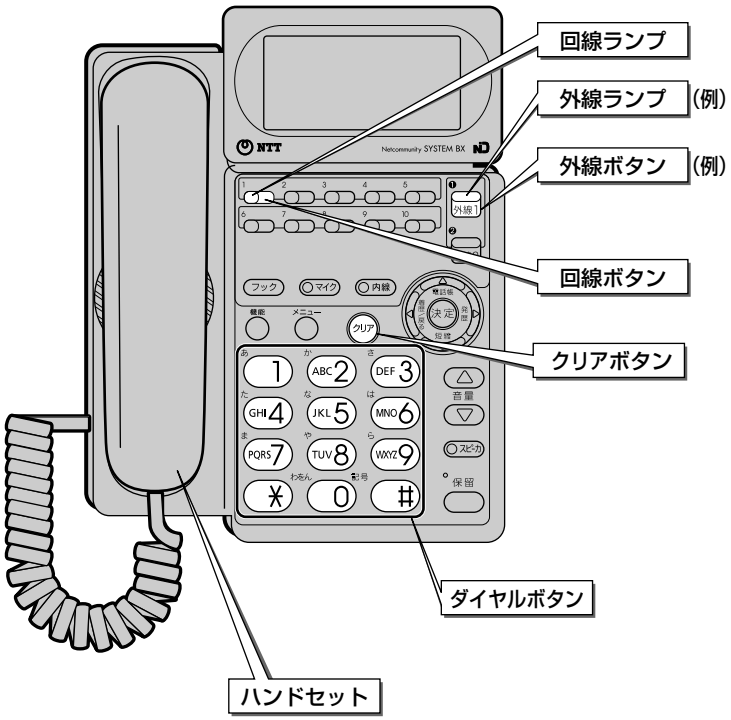
●設定データの初期化を実行しても、本商品には以前の設定データが残っていますので、設定データの保存を行わずに再起動すると以前の設定データにより動作します。

お知らせ

●設定を有効にするために設定データ保存（☛P47）を行ったあと、本商品の再起動（☛P57）を行ってください。
設定データ保存を行ったとき認証画面が表示されますので、パスワードを入力しないで「OK」ボタンをクリックします。その後、表示された画面の「OK」ボタンをクリックしてください。

IP電話サービスをお使いになるには

内線電話機でIP電話サービスをご利用になる場合は、以下の操作を行ってください。



■電話をかける（発信）

1. 外線（回線）ランプが消えていることを確認し、外線（回線）ボタンを押します。
2. ハンドセットを取りあげます。
3. 電話番号をダイヤルボタンで押します。
4. 相手の方が出たら、お話しください。
5. お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

■電話を受ける（着信）

1. 着信音が鳴り、外線（回線）ランプが赤く点滅します。
2. ハンドセットを取りあげて、相手の方とお話しください。
3. お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

ワンポイント

●相手先に自分の電話番号が通知される条件について

IP電話サービスを利用して電話をかけた場合には、下記のような条件により相手先に発信者番号が通知されます。

（2008年5月現在）

本商品の「発信者番号通知」の設定	ダイヤル操作		
	相手の方の電話番号（通常の操作）	「184」＋相手の方の電話番号	「186」＋相手の方の電話番号
する	IP電話番号を通知可能（※）	通知しない	IP電話番号を通知可能（※）
しない	通知しない	通知しない	IP電話番号を通知可能（※）

※発信者番号の通知可否はご契約のIP電話サービスによります。

お知らせ

●IP電話サービスをご利用になるには、プロバイダ等とのIP電話サービス契約が必要です。

⚠ 注意

●回線の状況によっては、通話品質が劣化する場合があります。

運用方法について

運用時に利用できる操作

●運用時に利用できる操作は以下のとおりです。

- WAN／VoIPの起動・停止（☛P51）
- レポート表示（動作状態、統計情報など）（☛P52）
- 設定一覧表示（☛P56）
- 再起動（☛P57）

●運用までの操作の流れは以下のとおりです。

- パソコンからの入力は、ASCII文字のみですので、シフトJIS（漢字、ひらがな、カナ）は入力しないでください。

1 パソコンのブラウザソフトを起動します。

使用するブラウザは以下のものを推奨します。
Windows Vista®：Internet Explorer® 7.0以降
Windows® XP（SP2）：Internet Explorer® 6.0（SP2）以降
Windows® 2000（SP4）：Internet Explorer® 6.0（SP1）以降
（2008年5月現在）

2 ブラウザソフトの「アドレス」に本商品のIPアドレスを入力し、［Enter］キーを押します。

本商品のLANインタフェースに対して設定したIPアドレスを入力してください。
お買い求め時の本商品のIPアドレスは「192.168.1.1」です。
認証画面が表示されます。

3 パスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

4 メインメニューから各操作を行います。

操作方法は各項目を参照してください。

お知らせ

- ●手順③でユーザ名は入力しないでください。入力した場合ログインできません。
- ●認証画面で「パスワードを保存する」のチェックボックスをチェックしても、入力したパスワードはパソコンに保存されません。次回、本商品にログインする場合は、再びパスワードを入力する必要があります。
- ●お買い求め時は、パスワードは設定されていません。
- ●JavaScriptの設定は、必ず「有効」にしてご利用ください。

WAN／VoIPの起動・停止を行うには

WANインタフェースを手動操作することにより、起動・停止することができます。

メイン メニュー ➡ レポート 表示 ➡ インタフェース 状態表示

1 メインメニューで「レポート表示」をクリックします。

レポート表示メニューが表示されます。

2 レポート表示メニューで「インタフェース状態表示」をクリックします。

LANインタフェース状態、WANインタフェース状態が表示されます。

3 WANインタフェースの「起動」または「停止」ボタンをクリックします。

「起動」：WANに接続します。
「停止」：WANとの通信を停止します。

お知らせ

- 「停止」ボタンによりWAN側との通信を停止した場合は、通話中のIP電話は切断されます。
- 停止中は、IP電話サービスでの発信・着信はご利用になれません。「起動」ボタンをクリックして、WANに接続してください。

レポート表示を行うには

メイン メニュー → レポート 表示

1 メインメニューで「レポート表示」をクリックします。

レポート表示メニューが表示されます。

2 表示する項目を選択します。

表示したい項目をメニューの中から選択してください。

インタフェース状態表示	：インタフェースの状態を表示します。
パケット統計情報表示	：各インタフェースの送受信パケット数を表示します。
ARPテーブル表示	：ARPテーブルの登録内容を表示します。
DNSキャッシュテーブル表示	：DNSキャッシュテーブルの登録内容を表示します。
IPルーティング情報表示	：ルーティング情報を表示します。
DHCP割り付け状態表示	：DHCPによるIPアドレス割り付け状態を表示します。
ログ表示	：本商品の動作履歴を表示します。

インタフェース状態を表示する場合

インタフェースの状態を表示します。

1 レポート表示メニューで「インタフェース状態表示」をクリックします。

LANインタフェース状態、WANインタフェース状態が表示されます。
「LANインタフェース状態」：LANの状態を表示します。
「WANインタフェース状態」：WANの状態を表示します。
・「起動」／「停止」ボタン ：WAN／VoIPの起動・停止を操作することができます。（☛P51）

パケット統計情報を表示する場合

各インタフェースの送受信パケット数を表示します。

1 レポート表示メニューで「パケット統計情報表示」をクリックします。

LANおよびWANの統計情報が表示されます。
「累計」：インタフェースで送信／受信したパケット数
「失敗」：送信／受信でエラーが発生したパケット数
「破棄」：バッファ不足により受信できなかったパケット数

お知らせ

- 「クリア」ボタンをクリックすると、すべてのパケット統計情報をクリアします。
- 「失敗」や「破棄」の値が多い場合は、ネットワークのトラヒックが異常に高くなっている可能性があります。
- 統計情報は本商品を再起動するとクリアされます。

ARPテーブルを表示する場合

ARPテーブルの登録内容を表示します。

1

レポート表示メニューで「ARPテーブル表示」をクリックします。

IPアドレスとMACアドレスの対応表が表示されます。

お知らせ

- ARPテーブルは本商品を再起動するとクリアされます。

DNSキャッシュテーブルを表示する場合

DNSキャッシュテーブルの登録内容を表示します。

1

レポート表示メニューで「DNSキャッシュテーブル表示」をクリックします。

ドメイン名とIPアドレスが表示されます。

お知らせ

- 「クリア」ボタンをクリックすると、DNSキャッシュテーブルの情報がクリアされます。
- DNSキャッシュテーブルは本商品を再起動するとクリアされます。

IPルーティング情報を表示する場合

ルーティング情報を表示します。

1

レポート表示メニューで「IPルーティング情報表示」をクリックします。

インタフェースIPルーティング情報、スタティックIPルーティング情報、および学習したダイナミックIPルーティング情報が表示されます。

レポート表示を行うには

DHCP割り付け状態を表示する場合

DHCPによるIPアドレス割り付け状態を表示します。

1 レポート表示メニューで「DHCP割り付け状態表示」をクリックします。

IPアドレス割り付け状態が表示されます。

「削除」ボタンをクリックすることにより、選択したIPアドレス割り付けを削除します。使用されていないIPアドレスを削除することにより、再度割り付けが可能になります。
「保存」ボタンをクリックすることにより、IPアドレス割り付け情報を本商品へ保存します。本商品を再起動しても以前割り付けられたIPアドレスを再び割り付けることができます。

ログを表示する場合

本商品の動作履歴を表示します。

1

レポート表示メニューで「ログ表示」をクリックします。

- 本商品の動作履歴が表示されます。（最大128行）
- 画面表示される主な情報は次のとおりです。

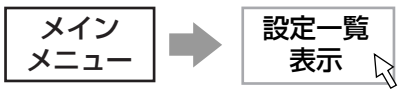
PPPoE Start <インタフェース名>	PPPoEの接続が開始されたことを表します。
PPPoE Opened	PPPoEのセッションが確立し通信状態となったことを表します。
PPPoE Send Terminate	PPPoEの切断が開始されたことを表します。
PPPoE Closed	PPPoEの切断が終了したことを表します。
LCP 確立手順開始	LCP確立のネゴシエーションを開始したことを表します。
LCP 手順確立	LCP確立のネゴシエーションが完了したことを表します。
LCP 完了手順開始	LCP完了のネゴシエーションを開始したことを表します。
認証 開始	認証(PAP/CHAP)のネゴシエーションを開始したことを表します。
認証 成功	認証が成功したことを表します。
認証 失敗	認証が失敗したことを表します。
IPCP 確立手順開始	IPCP確立のネゴシエーションを開始したことを表します。
IPCP 手順確立	IPCP確立のネゴシエーションが完了したことを表します。
IPCP 完了手順開始	IPCP完了のネゴシエーションを開始したことを表します。
サーバ登録完了［IP電話番号］	REGISTERサーバへの登録が成功したことを表します。
サーバ登録失敗［IP電話番号］	REGISTERサーバへの登録に失敗したことを表します。
サーバ登録解除［IP電話番号］	REGISTERサーバへの登録を解除したことを表します。

お知らせ

- 「クリア」ボタンをクリックするとすべてのログ情報をクリアします。
- ログ表示は本商品を再起動するとクリアされます。
- 接続シーケンスによっては、一部ログが表示されないことがあります。
- その他のログについては、工事担当者にお問い合わせください。

設定一覧表示を行うには

設定されているデータを一覧表示します。



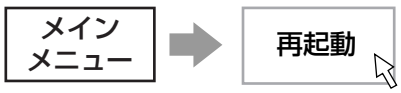
1 メインメニューで「設定一覧表示」をクリックします。

設定されているデータが一覧表示されます。
画面表示される情報は次のとおりです。

- インタフェース設定
- DHCPサーバ設定
- DNS設定
- アドレス変換設定
- ルーティング設定
- フィルタリング設定
- 自動バージョンアップ設定
- VoIP設定

再起動を行うには

本商品の設定を変更したあとに再起動を行うことで、設定内容を反映することができます。



1 メインメニューで「再起動」をクリックします。

再起動の確認画面が表示されます。

2 「OK」ボタンをクリックします。

本商品が再起動されます。

お知らせ

- 再起動した場合、以下のことに注意してください。
  - ルータの機能をご利用の場合は、データ通信が切断されます。
  - IP電話の機能をご利用の場合は、IP電話サービスによるIP電話は切断されます。
- 再起動後、ブラウザからの保守を行う場合には、約30秒以上経過後に行ってください。
- 本商品を再起動したときは、DHCPサーバを利用しているパソコンを再起動してください。

プログラムをバージョンアップするには

本商品は、最新のプログラムをダウンロードしてバージョンアップすることができます。
バージョンアップには、自動バージョンアップとローカルバージョンアップの2種類が用意されています。

自動バージョンアップ

当社サーバから本商品のファームウェアを自動的にダウンロードする機能です。
自動バージョンアップは、ブラウザからの操作により手動で行うこともできます。

■手動更新の手順

1 **メインメニューで「プログラムバージョンアップ」をクリックします。**
バージョンアップメニューが表示されます。

2 **バージョンアップメニューで「自動バージョンアップ状態表示」をクリックします。**
自動バージョンアップ状態表示画面が表示されます。

3 **自動バージョンアップ状態表示画面で「手動更新」をクリックします。**
更新チェックが実行され結果が表示されます。
- 新しいファームウェアがある場合は、「新しい更新があります。」と表示されます。
- 新しいファームウェアがない場合は、「新しい更新はありません。」と表示されます。
- サーバとの通信にエラーが発生した場合は、「更新チェックタイムアウト」と表示されます。

4 **「新しい更新があります。」画面で「更新内容」をクリックします。**
更新内容が表示されるので、内容を確認します。

5 **更新プログラム通知画面で「更新」をクリックします。**
本商品にプログラムの転送を開始します。転送はネットワークの状況によって、しばらく時間を必要とする場合があります。

お願い

●バージョンアップ中は、絶対に下記の操作を行わないでください。故障の原因となることがあります。
＊本商品を再起動する。
＊本商品の「WANインタフェースの停止」をする。
＊主装置の電源を切る。
＊パソコンの電源を切る。

お知らせ

●自動バージョンアップによるプログラムのダウンロード／更新中は、保守用電話機に本商品がバージョンアップ中であることが表示されます。
●ルータ機能が「無効」の場合は、ブラウザからの操作により、変更内容を確認する機能や手動による更新操作を利用することはできません。

6 **更新が終了したら、本商品を再起動します。****（☛P57）**
正常に書き換えられると新しいプログラムで動作するようになります。

ローカルバージョンアップ

プログラムファイルをパソコンに用意し、パソコンからの操作でバージョンアップを行います。

■バージョンアップの手順

1. **最新のプログラムファイルを用意し、パソコンに新しいフォルダを作成して保存しておきます。**

2. **メインメニューで「プログラムバージョンアップ」をクリックします。**
   バージョンアップメニューが表示されます。

3. **バージョンアップメニューで「ローカルバージョンアップ」をクリックします。**
   ローカルバージョンアップ画面が表示されます。

4. **「参照」ボタンをクリックし、ダウンロードしたいプログラムを指定します。**

5. **「送信開始」ボタンをクリックします。**
   本商品のプログラムの転送を開始します。転送は、ネットワークの状況によって、しばらく時間を必要とする場合があります。

6. **転送が正常に完了したら、「更新開始」ボタンをクリックします。**

STOP お願い

- プログラムの転送中および更新中は、絶対に下記の操作を行わないでください。故障の原因となることがあります。
  - ＊本商品を再起動する。
  - ＊主装置の電源を切る。
  - ＊パソコンの電源を切る。

7. **更新が終了したら、本商品を再起動します。****（☛P57）**
   正常に書き換えられると新しいプログラムで動作するようになります。

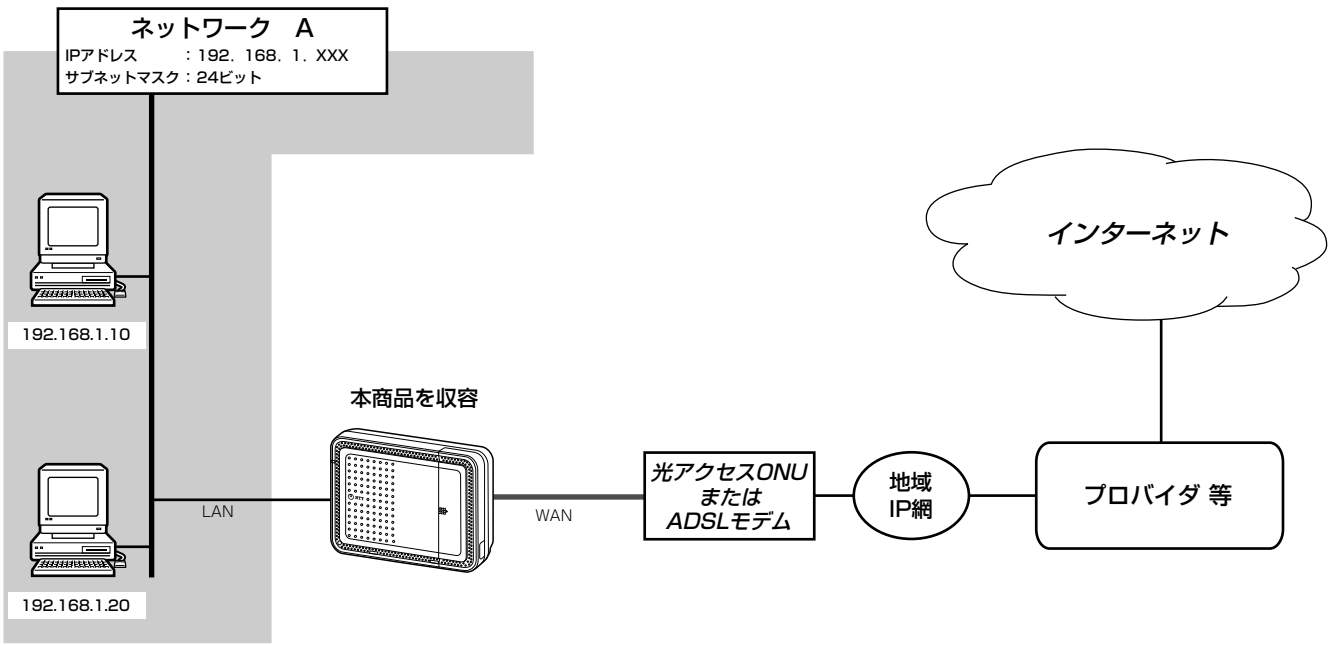
フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL接続設定例

フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL接続によるインターネット接続の設定例を示します。

■設定について
端末型によるアドレス変換を使用したインターネット接続を行います。
ただし、DNSサーバアドレスはプロバイダ等から自動取得とします。
アドレス変換設定は、アドレス変換を「端末型変換」に設定します。

●ネットワークを以下のようにします。
ネットワークA：IPアドレス　192.168.1.XXX
：サブネットマスク　24ビット

【構成図】



●ネットワークAの本商品は次の項目の設定が必要です。
1.LANインタフェース設定（☛P21）
2.WANインタフェース設定（☛P17）
3.ProxyDNS設定（☛P28）
4.アドレス変換設定（☛P31）
5.ルーティング設定（☛P34）

■以下の項目を設定してください

設定方法については「2. 接続する」、「3. データ設定を行う」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

●インタフェース設定－LANインタフェース設定

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	Net-A
2	IPアドレス	192.168.1.1
3	サブネットマスク	24

●インタフェース設定－WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	プロバイダから通知された認証方式
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●DNS設定－ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
1	ProxyDNS機能	有効
2	問い合わせ先取得方法	自動取得
3	自動取得先インタフェース	INTERNET

●アドレス変換設定－NAT設定

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●ルーティング設定－デフォルトルート

No	データ名称	設定するデータ
1	経路先	INTERNET
2	ホップ数	1

お知らせ

●インターネット接続を行う場合、本商品のDNS設定によりパソコンに対してDNSサーバアドレスの設定を行う必要があります。

＊ ProxyDNS機能「有効」の場合　　：本商品のIPアドレスを設定する
＊ ProxyDNS機能「無効」の場合　　：プロバイダから通知されたDNSサーバアドレスを設定する

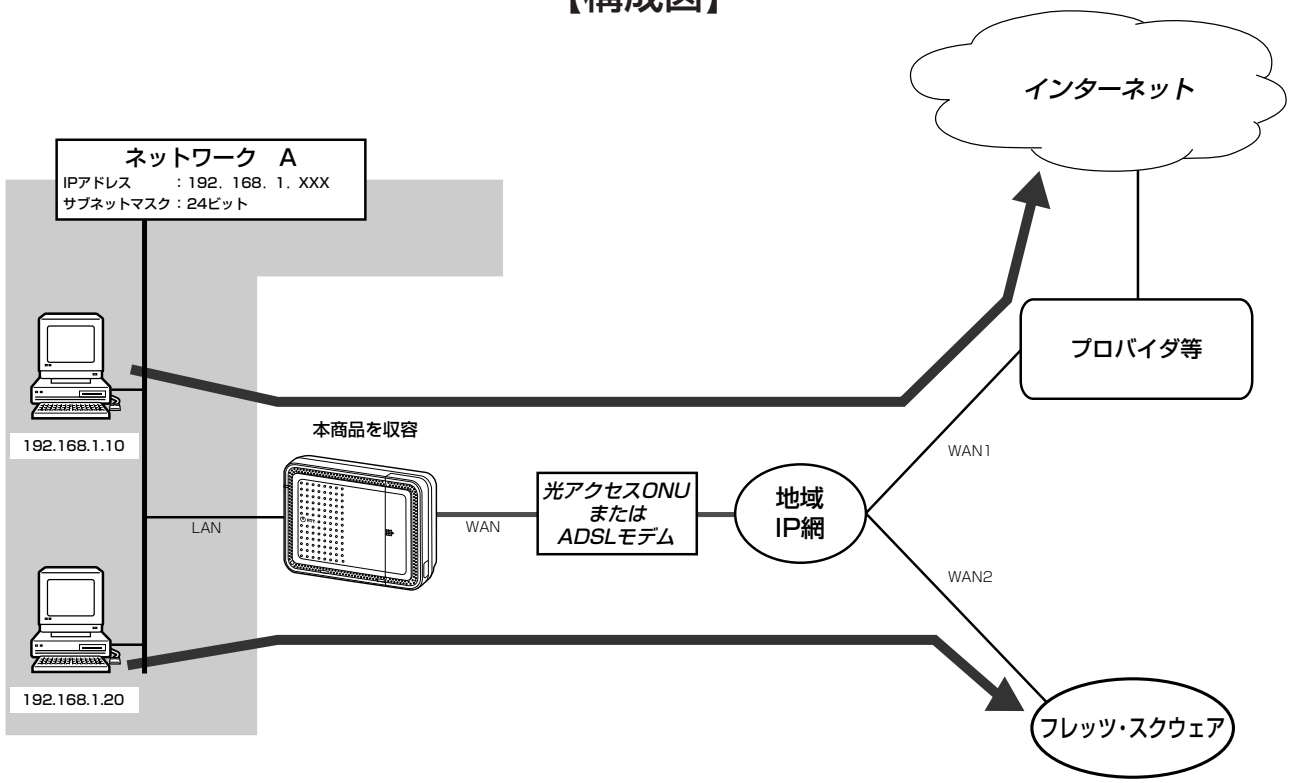
同時にインターネットとフレッツ・スクウェアを利用する設定例

ドメインルーティング設定を利用し、インターネットとフレッツ・スクウェアへ同時に接続することができます。

■設定について
インターネット接続とフレッツ・スクウェア接続の設定を行います。
インターネット接続とフレッツ・スクウェア接続は、WANインタフェース設定で行います。
ドメインルーティングにフレッツ・スクウェアへのルーティングを設定します。
ProxyDNS設定を「有効」に設定します。

●ネットワークAに接続されているPCから、インターネットとフレッツ・スクウェアの両方へ接続を行います。

【構成図】



●ネットワークAの本商品は次の項目の設定が必要です。

1.WANインタフェース設定（☛P17）
2.ProxyDNS機能（☛P28）
3.アドレス変換設定（☛P31）
4.ルーティング設定（☛P34）

「フレッツ・スクウェア」とは

フレッツアクセスサービス（Bフレッツ／フレッツ・ADSL／フレッツ・ISDN）ご利用のお客様専用のサイトです。
「フレッツ・スクウェア」はNTT東日本／NTT西日本の地域IP網内に設置したサーバにより提供しており、インターネット上では公開されていません。このためフレッツ・スクウェアに接続する場合には、インターネットプロバイダへの接続ではなく、フレッツ・スクウェア専用の接続設定が必要になります。

お知らせ

- ドメインルーティングでフレッツ・スクウェアに接続した場合、一部のサービスが利用できない場合があります。すべてのサービスを利用する場合は、PPPoEブリッジ機能を有効として、PCから直接フレッツ・スクウェアに接続してください。
- お使いのパソコンや本商品にDNS問い合わせ結果が保存されている場合は、ドメインルーティングが正常に動作しないことがあります。このような場合は、以下の操作によりDNS問い合わせ結果をクリアしてください。
  - パソコンを再起動する
  - 本商品のDNSキャッシュテーブルをクリアする（☛P53）

■以下の項目を設定してください。

設定については、「2.接続する」、「3.データ設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

●インタフェース設定－WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	プロバイダから通知された認証方式
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●インタフェース設定－WANインタフェース設定－PPPoE設定（フレッツ・スクウェアに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	FLETS
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	NTT東日本：guest@flets NTT西日本：flets@flets
5	接続パスワード	NTT東日本：guest NTT西日本：flets

●DNS設定－ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
1	設定するデータ	有効
2	問い合わせ先取得方法	自動取得
3	自動取得先インタフェース	INTERNET

●アドレス変換設定－NAT設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●アドレス変換設定－NAT設定（フレッツ・スクウェアに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	FLETS
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●ルーティング設定－デフォルトルート設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	ホップ数	1

●ルーティング設定－ドメインルーティング設定（フレッツ・スクウェアに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	ドメイン名	flets
2	経路先	FLETS
3	DNSサーバ	－
4	ホップ数	1

5 主な設定例 PPPoEブリッジ機能を使用して フレッツ・スクウェアを利用する設定例

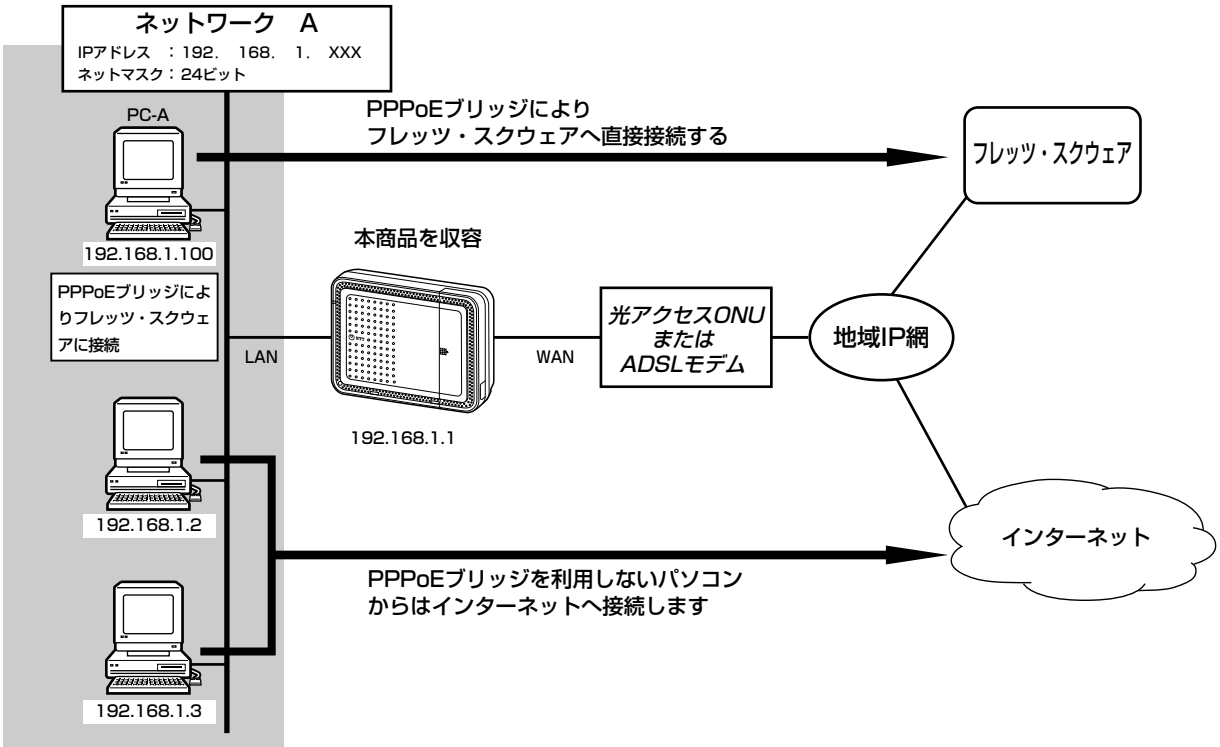
PPPoEブリッジ接続を利用し、LANに接続されているパソコンから直接PPPoEによりフレッツ・スクウェアへ接続させます。
インタフェース設定からWANインタフェースを設定することにより、直接PPPoE接続されていないパソコンからインターネットへ接続できます。

■設定について
インターネット接続とPPPoEブリッジの設定を行います。
インターネット接続は、WANインタフェース設定で行います。
PPPoEブリッジ設定でPPPoEブリッジ接続を「する」に設定します。
ただし、DNSサーバアドレスはプロバイダ等から指定されたIPアドレスを使用します。

●ネットワークAに接続されているPC-AからPPPoEブリッジ接続によりフレッツ・スクウェアへ接続を行います。その他のパソコンからは、インターネットへ接続します。

●PC-Aからフレッツ接続ツールを利用した接続ができます。

【構成図】



●ネットワークAの本商品は次の項目の設定が必要です。
1.WANインタフェース設定（☛P17）
2.PPPoEブリッジ設定（☛P23）
3.ProxyDNS設定（☛P28）
4.ルーティング設定（☛P34）

お知らせ

●PPPoEブリッジによりフレッツ・スクウェアへ接続されているパソコンから、インターネットを同時に利用できないことがあります。
●パソコンからのPPPoEによる接続プロバイダと本商品の接続プロバイダが同じアカウントに設定されていると、同時に接続することができないことがあります。ご注意ください。

■以下の項目を設定してください。

設定については、「2.接続する」、「3.データ設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

●インタフェース設定－WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	プロバイダから通知された認証方式
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●インタフェース設定－PPPoEブリッジ設定

No	データ名称	設定するデータ
1	PPPoEブリッジ接続	する

●DNS設定－ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
1	ProxyDNS機能	有効
2	問い合わせ先取得方法	固定IPアドレス
3	問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレス	プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレス
4	問い合わせ先セカンダリDNSサーバアドレス	プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバのIPアドレス

●ルーティング設定－デフォルトルート

No	データ名称	設定するデータ
1	経路先	INTERNET
2	ホップ数	1

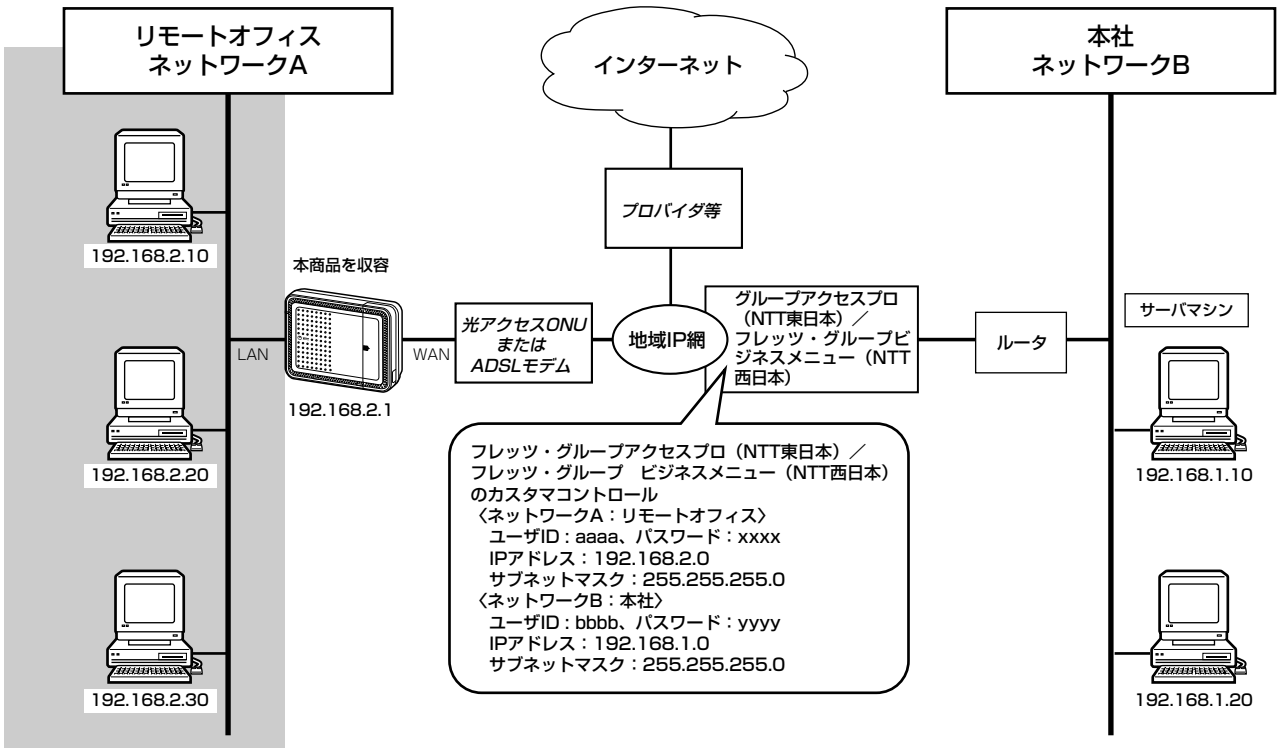
5 主な設定例　フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）利用時の設定例

ここでは、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）の利用によるフレッツ・シリーズご契約者間でグループを構成したグループ内通信の設定例を示します。各サービスプランのIPアドレス付与方法は以下の通りです。

事業者	サービスプラン	IPアドレス付与方法
NTT東日本	フレッツ・グループアクセス プロ	LAN型／端末型
	フレッツ・グループアクセス ライト	端末型
NTT西日本	フレッツ・グループ ビジネスメニュー	LAN型／端末型
	フレッツ・グループ ベーシックメニュー	端末型

●「端末型払い出し」によりIPアドレスを付与する場合は、「フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL接続設定例」（☛P60）を参照ください。

【構成図】



●フレッツ・グループアクセス　プロ（NTT東日本）／フレッツ・グループ　ビジネスメニュー（NTT西日本）での接続にBフレッツまたはフレッツ・ADSLを利用し「LAN型払い出し」によりIPアドレスを付与する場合は、次の項目の設定が必要です。

1.LANインタフェース設定（☛P21）
2.WANインタフェース設定（☛P17）
3.アドレス変換設定（☛P31）
4.ルーティング設定（☛P34）

■以下の項目を設定してください。

設定方法については「2.接続する」、「3.データ設定を行う」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

●インタフェース設定－LANインタフェース設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	NET-A
2	IPアドレス	192.168.2.1
3	サブネットマスク	24

●インタフェース設定－WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●インタフェース設定－WANインタフェース設定－PPPoE設定（フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）に対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	FGA
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	aaaa@グループ名.gapro.flets（フレッツ・グループアクセスの場合） aaaa@グループ名.os.a（フレッツ・グループの場合）
5	接続パスワード	xxxx

●アドレス変換設定－NAT設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●アドレス変換設定－NAT設定（フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）に対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	FGA
2	IPアドレス変換方式	しない

フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）利用時の設定例

●ルーティング設定－デフォルトルート

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	ルータ機能	有効
2	ダイナミックルーティング機能	無効
3	ルーティング情報送出	無効
4	経路先	INTERNET
5	経路先IPアドレス	－
6	ホップ数	1

●ルーティング設定－スタティックIPルーティング

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	IPアドレス	192.168.1.0
2	サブネットマスク	24
3	経路先	FGA
4	経路先IPアドレス	－
5	ホップ数	1

ワンポイント

●カスタマコントロール設定を行うには

カスタマコントロール用の接続設定が必要になりますので、一時的に本商品を光アクセスONUまたはADSLモデムから外して、設定用のパソコンを光アクセスONUまたはADSLモデムに直接接続して設定してください。詳しくは、フレッツ・グループアクセスプロのカスタマコントロール操作マニュアル（NTT東日本）／フレッツ・グループ　ユーザーズマニュアル（NTT西日本）を参照してください。

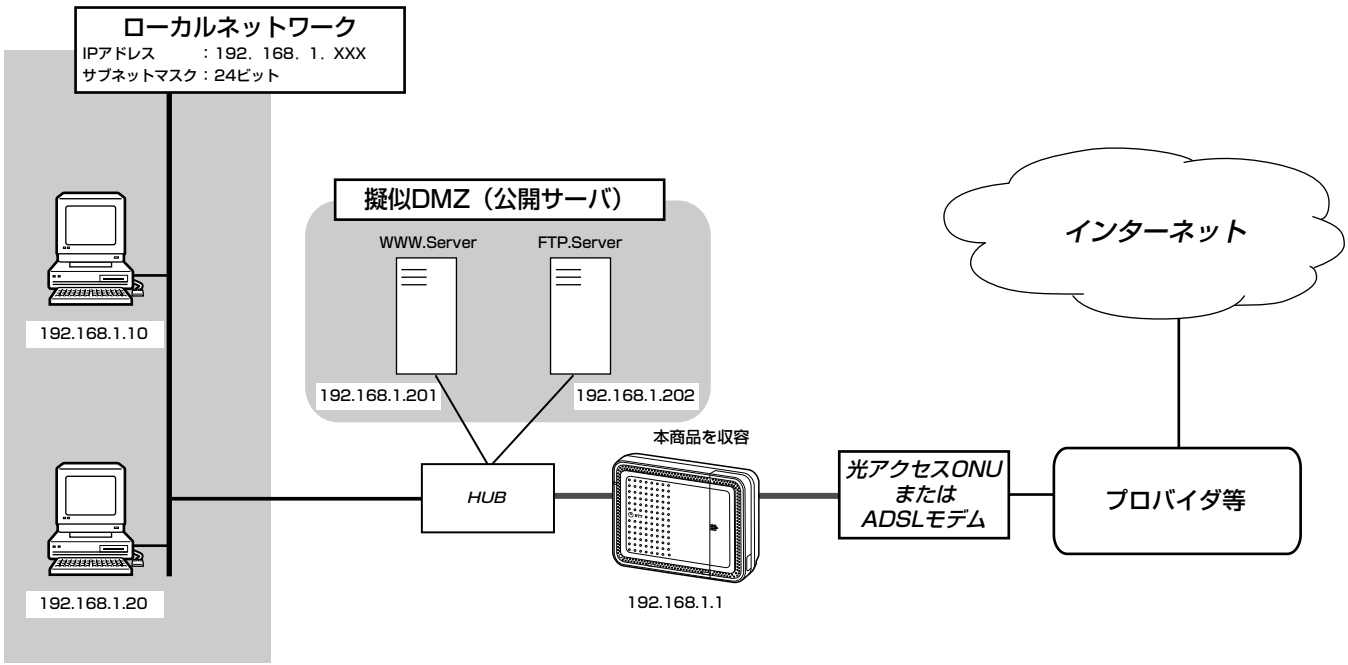
お知らせ

●Bフレッツのビジネスタイプは、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）をご利用できません。
●グループ内のIP通信は、共有フォルダの利用によるファイル共有やファイルサーバへのアクセス、Webサーバを利用した情報共有等が可能となります。（ご利用者の環境や設定により異なります）本サービスで使用できる通信は、TCP/IPとなります。
●Windows®のファイル共有を利用になる場合は、本商品のNetBIOSフィルタリング設定を削除してください。

擬似的なDMZの設定例

静的NAPT機能を使用し、ローカルネットワークに擬似的なDMZを設置した場合の設定例を示します。
擬似的なDMZを設置することにより、サーバを公開することができます。プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスへアクセスすることにより、インターネット側から公開サーバへアクセスすることができます。

【構成図】



●DMZをもうけて公開サーバを設置する場合は、次の項目の設定が必要です。
1.LANインタフェース設定（☛P21）
2.WANインタフェース設定（☛P17）
3.アドレス変換設定（☛P31）
4.ルーティング設定（☛P34）

■以下の項目を設定してください。

設定方法については「2.接続する」、「3.データ設定を行う」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

●インタフェース設定−LANインタフェース設定

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	NET-A
2	IPアドレス	192.168.1.1
3	サブネットマスク	24

擬似的なDMZの設定例

●インタフェース設定－WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●アドレス変換設定－NAT設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●アドレス変換設定－静的NAPT設定（WWW Serverに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	プロトコル	TCP
2	開始ポート番号	80
3	終了ポート番号	80
4	IPアドレス	192.168.1.201

●アドレス変換設定－静的NAPT設定（FTP Serverに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	プロトコル	TCP
2	開始ポート番号	20
3	終了ポート番号	21
4	IPアドレス	192.168.1.202

●ルーティング設定－デフォルトルート

No	データ名称	設定するデータ
1	ルータ機能	有効
2	ダイナミックルーティング機能	無効
3	ルーティング情報送出	無効
4	経路先	INTERNET
5	経路先IPアドレス	－
6	ホップ数	1

DHCPサーバによる IPアドレスの自動割り付け設定例

DHCPサーバによるIPアドレスの自動割り付けを行う場合の設定例を示します。

■設定について
DHCPサーバにより、ネットワーク端末に対してIPアドレスの動的割り付けを行うことができます。ネットワーク端末は、IPアドレスを自動的に割り付ける設定にすることで、本商品に設定されているデータによりIPアドレスを割り付けます。
DHCPサーバによるIPアドレスの割り付けは、設定されているIPアドレスの範囲から割り付ける方法と、静的に割り付ける方法があります。

■以下の項目を設定してください。

設定方法については「3. データ設定を行う」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

●DHCPサーバ機能により、192.168.1.2～192.168.1.11までの10個を割り付けるIPアドレスに設定する場合は、次のようになります。

No	データ名称	設定するデータ
1	DHCPサーバ機能	有効
2	割り付け先頭IPアドレス	192.168.1.2
3	割り付け数	10
4	リース時間	24

●静的にIPアドレスを割り付けるには、次のように設定します。
ホスト名：HOSTにIPアドレス：192.168.1.20を割り付けます。
固定割り付けテーブル設定

No	データ名称	設定するデータ
1	IPアドレス	192.168.1.20
2	ホスト名	HOST
3	MACアドレス	00-20-C1-13-00-60（例）

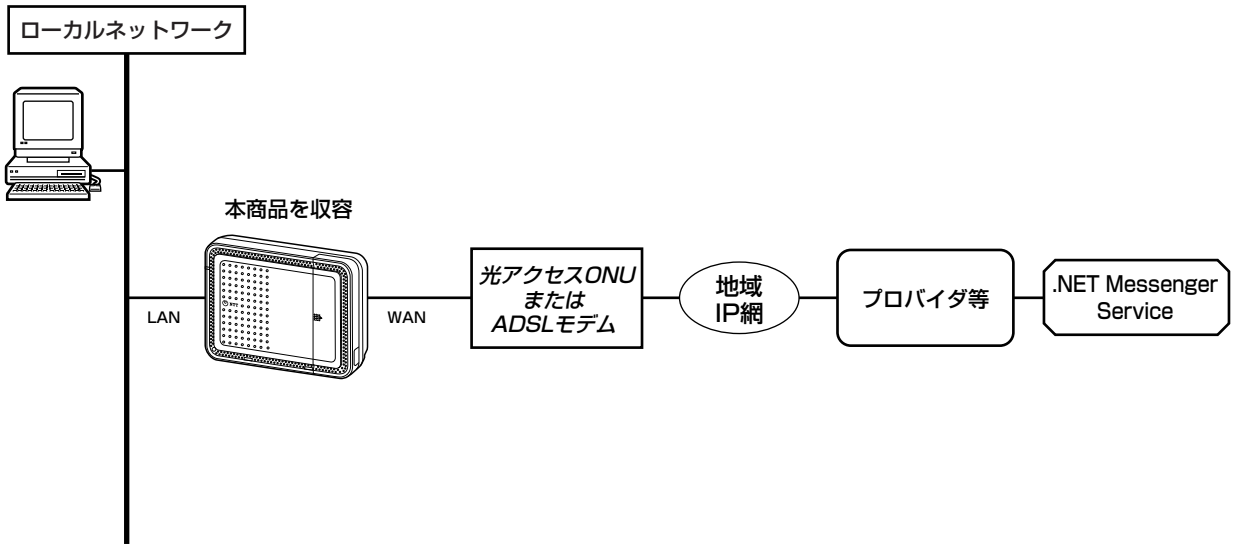
お知らせ

- ●端末のMACアドレスは、接続されているLANカード／ボードに記載されています。詳しくは使用しているLANカード／ボードの取扱説明書を参照してください。
- ●DHCPサーバによるIPアドレスの割り付けは、LAN側でのサポートとなります。
- ●固定割り付けテーブルの設定は、ホスト名およびMACアドレスの設定によりIPアドレスを静的に割り付けます。ホスト名のみの登録では割り付けが重複することがあります。
- ●すでにDHCPサーバがネットワークに接続されている場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「無効」に設定し、DHCPサーバ側で一括管理してください。

Windows® Messenger利用時の設定例

ここでは、フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL接続によるWindows® Messengerでの通信設定例を示します。

【構成図】



●次の項目の設定が必要です。

1. WANインタフェース設定（☛P17）
2. UPnP設定（☛P22）
3. ルーティング設定（☛P34）

■以下の項目を設定してください。

設定方法については「2.接続する」、「3.データ設定を行う」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

●WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●UPnP設定

No	データ名称	設定するデータ
1	UPnP設定	INTERNET

●ルーティング設定－デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
1	経路先	INTERNET
2	経路先IPアドレス	－
3	ホップ数	1

お知らせ

●Windows® OSにて、ユニバーサルプラグアンドプレイ（UPnP）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windows® の修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoft® にお問い合わせください。
●UPnPのインストールを確認するには「■UPnPインストールの確認方法」を参照してください。
●UPnPの動作を確認するには「■正常に動作しない場合の確認方法」（☛P77）を参照してください。
●次のような操作によりWindows® Messengerで相手と接続できない（接続に時間がかかる）ような場合は、Windows® Messengerをサインアウト後、再起動してください。
- プロバイダとの接続が切断された。
- 本商品のUPnP設定されている状態から、一度「なし」に設定（保存）し、再度設定をした。
- 本商品の電源を再起動した。

■UPnPインストールの確認方法

以下の手順でパソコンにUPnP（Universal Plug and Play）がインストールされていることを確認してください。

●Windows Vista®の場合

Windows Vista® の場合は、インストール済みとなっていますが、「ネットワーク探索」が無効になっているとUPnP機能が利用できません。以下の手順で確認してください。

なお、手順はコントロールパネルをカテゴリ表示している場合の説明をしています。クラシック表示をしている場合はワンポイントを参照してください。

1 [スタート]（Windowsのロゴ）ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

.（次ページへつづく）

Windows® Messenger利用時の設定例

（前ページのつづき）

2 [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリックします。

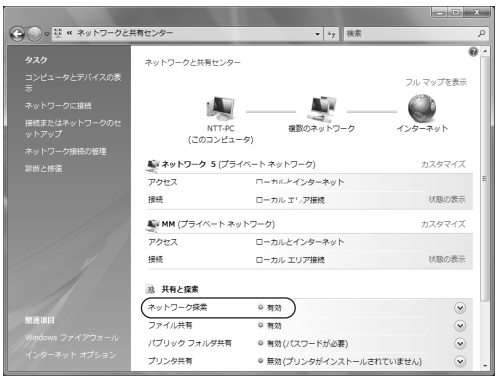
「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。

ワンポイント

●クラシック表示の場合

［ネットワークと共有センター］をダブルクリックします。

3 [ネットワーク探索] が［有効］になっていることを確認してください。

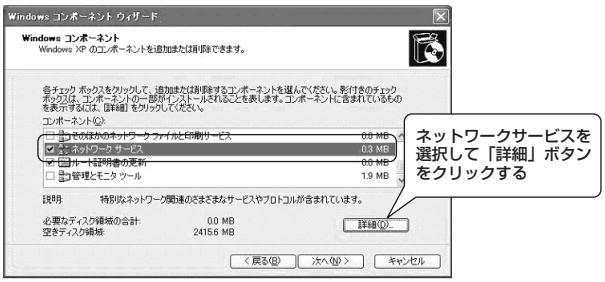


ワンポイント

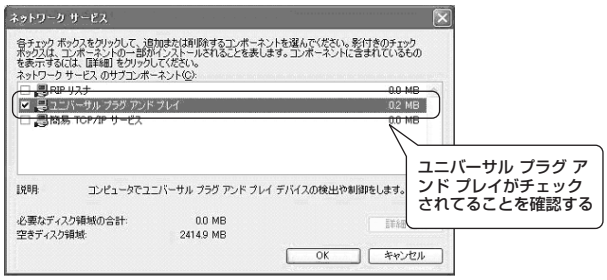
● ［無効］の場合は、「■インストールおよびUPnPを有効にする方法」（☛P75）を参照してください。

●Windows®XPの場合

1 [スタート] →［コントロールパネル］→［プログラムの追加と削除］→［Windowsコンポーネントの追加と削除］をクリックします。



2 ユニバーサルプラグアンドプレイがインストールされていることを確認します。



■インストールおよびUPnPを有効にする方法

UPnPを使用するには、パソコンのOSがUPnPに対応している必要があります。2008年5月時点でWindows Vista®やWindows® XPなどがUPnPに対応しています。

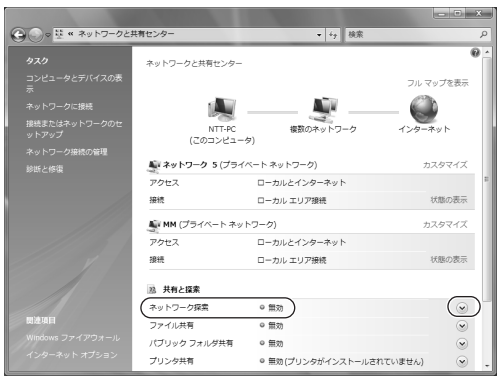
UPnPを使用するには、以下の手順でOSにUPnPコンポーネントをインストールしてください。

●Windows Vista® の場合

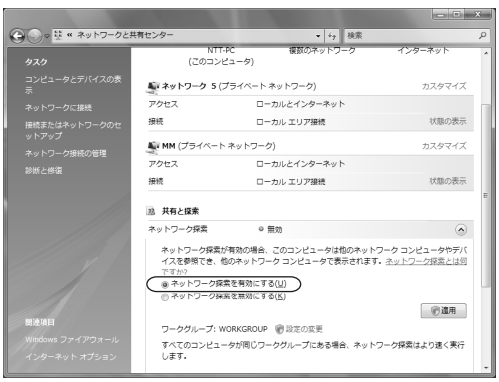
Windows Vista®の場合は、インストール済みとなっていますが、「ネットワーク探索」が無効になっているとUPnP機能が利用できません。以下の手順で設定を有効にします。

1 「■UPnPインストールの確認方法」の「●Windows Vista®の場合」（☛P73）の手順1～2を実行します。

2 [ネットワーク探索] が [無効] になっている場合は、右の [▽] ボタンをクリックします。



3 [ネットワーク探索を有効にする] をクリックし、[適用] ボタンをクリックします。



※ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。

●Windows® XPの場合

手順はコントロールパネルをカテゴリ表示している場合の説明をしています。クラシック表示している場合はワンポイントを参照してください。

Windows® のCD-ROMをご用意ください。インストール途中でWindows® のCD-ROMの挿入を求められたときは、画面の指示に従って操作してください。

1 [スタート] ボタンをクリックして、[コントロールパネル] をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

ワンポイント

●クラシック表示の場合

[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントして、[コントロールパネル] をクリックします。

2 [ネットワークとインターネット接続] をクリックします。

.（次ページへつづく）

Windows® Messenger利用時の設定例

（前ページのつづき）

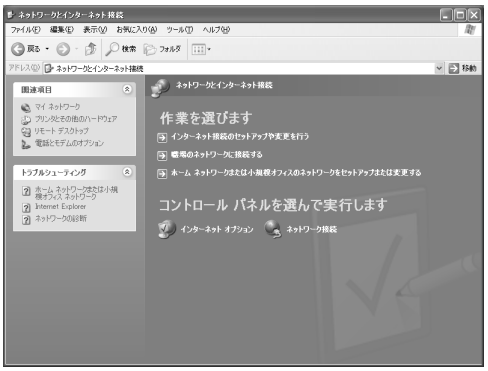
「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

ワンポイント

●クラシック表示の場合

［ネットワーク接続］をクリックし、手順4に進みます。

3［ネットワーク接続］をクリックします。

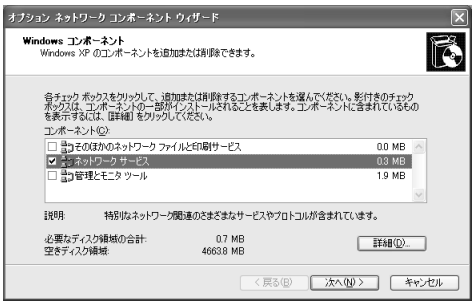


「ネットワーク接続」画面が表示されます。

4メニューバーの［詳細設定］をクリックし、メニューから［オプションネットワークコンポーネント］をクリックします。

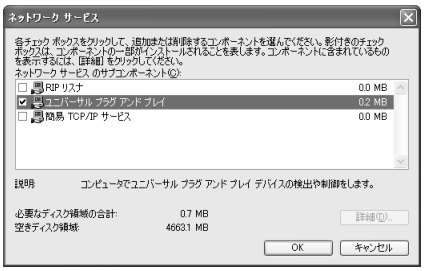
「オプションネットワークコンポーネントウィザード」画面を表示されます。

5［ネットワークサービス］を選択し、「詳細」ボタンをクリックします。



「ネットワークサービス」画面が表示されます。

6［ユニバーサル プラグ アンド プレイ］をチェックし、「OK」ボタンをクリックします。



「オプションネットワークコンポーネントウィザード」画面に戻ります。

7「次へ」ボタンをクリックします。

オプションネットワークコンポーネントウィザードが起動し、インストールを開始します。

■正常に動作しない場合の確認方法

以下の手順でパソコンや本商品が正常に動作していることを確認してください。

●Windows Vista®の場合

1 [スタート]（Windowsのロゴ）ボタン→［コントロールパネル］→［ネットワークの状態とタスクの表示］をクリックします。

「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。

2 [コンピュータとデバイスの表示] をクリックします。

ネットワークコンピュータとデバイスが表示されます。

3 [RT InternetGatewayDevice] アイコンが表示されていることを確認します。

ワンポイント

- 「ネットワーク探索が無効になっています。ネットワークコンピュータとデバイスは表示されません。変更するには…」と表示されたときは、パソコンが正しく設定されていません。メッセージにしたがってネットワーク探索を有効に設定してください。
- ［RT InternetGatewayDevice］アイコンが表示されないときは、本商品の設定が正しく設定されていません。

Windows® Messenger利用時の設定例

●Windows®XPの場合

1 **［スタート］→［マイコンピュータ］→［マイネットワーク］をクリックします。**
「マイネットワーク」画面が表示されます。

2 **［ネットワーク接続を表示する］をクリックします。**
「ネットワーク接続」画面が表示されます。

3 **［インターネット接続］を右クリックし、［プロパティ］をクリックします。**
「詳細設定」画面が表示されます。

4 **「設定」ボタンをクリックします。**

●表示されない場合
パソコンからのポートマッピングの追加が行われていません。Windows® Messengerの再起動を行ってください。再起動で復旧しない場合は、パソコンを再起動してください。

お知らせ

●本商品でUPnP機能により利用できる機能を以下に示します。

機能	Windows® Messenger	機能	Windows® Messenger
インスタントメッセージ	○	ビデオチャット	○
音声チャット	○	アプリケーション共有	○
ファイル送信	×	ホワイトボード	○
電話をかける	×	リモートアシスタンス	○

IPアドレスの割り付け方法

IPアドレスとは

IP（Internet Protocol）により接続されるパソコンやワークステーションなどのネットワーク端末がそれぞれの機器を特定するために割り付けられるアドレスをIPアドレスといいます。
IPアドレスは、32ビットからなり8ビットごとに10進数で 192.128.128.1 というように表現します。また、IPアドレスの中でホストを識別する部分とネットワークを識別する部分に分けられます。
IPアドレスにはネットワーク部分を識別するクラスというものがあり、ネットワークの規模により割り付け可能なホストの数が決められます。

●クラスは、IPアドレスの最初のビットにより以下のように判断されます。

クラス	IPアドレス 先頭の4ビット(＊は任意)
クラスA	0＊＊＊
クラスB	10＊＊
クラスC	110＊

●クラス別のアドレス一覧を以下に示します。

クラスA

0	ネットワーク (7ビット)	ホスト (24ビット)

クラスB

1	0	ネットワーク (14ビット)	ホスト (16ビット)

クラスC

1	1	0	ネットワーク (21ビット)	ホスト (8ビット)

IPアドレスを本商品に割り付けるには

本商品へ割り付けるIPアドレスは、インターネットなどグローバルなネットワークに接続するような場合、プロバイダ等から割り当てられたIPアドレスを設定します。
また、ローカルなネットワークに接続するような場合は、ネットワーク管理者から付与されたIPアドレスを設定します。

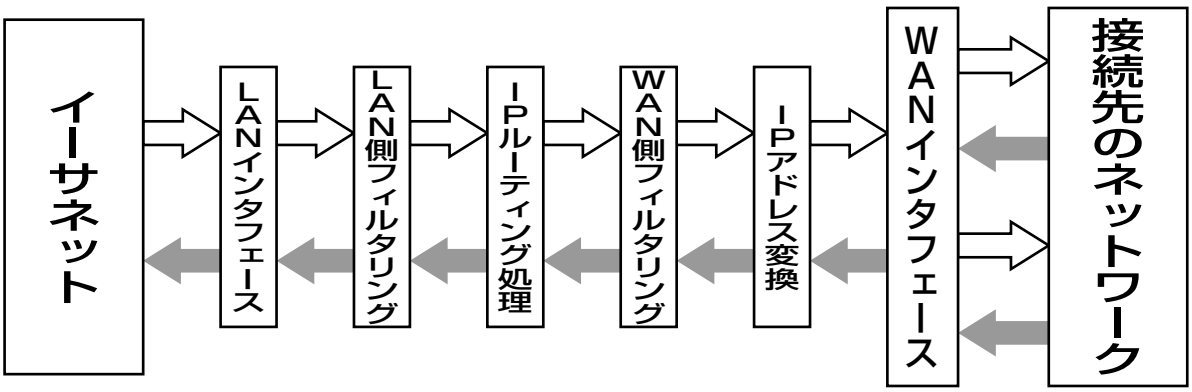
●一般に、ローカル(プライベート)ネットワークでは以下のIPアドレスを使用します。

クラス	プライベートアドレスの範囲
クラスA	10.0.0.0～10.255.255.255
クラスB	172.16.0.0～172.31.255.255
クラスC	192.168.0.0～192.168.255.255

フィルタリングについて

本商品のフィルタリングは、それぞれのインタフェース(LANインタフェース、WANインタフェース)から受信したパケットに対して行います。まず受信したインタフェースごとに設定されているフィルタリングテーブルと比較しフィルタリング/フォワーディングを行います。また、各インタフェースにパケット送出時にも同様にフィルタリング/フォワーディングを行います。
パケットがフィルタリングテーブルの条件と一致する場合にフィルタリング(破棄)するかフォワーディング(転送)するかの設定は、フィルタリング設定(☛P40～43)で決定します。

■パケットの流れとフィルタリングの関連を以下に示します



■フィルタリングの方法について

フィルタリングの動作としては、「特定のパケットのみをフィルタリングする場合」と「特定のパケットのみをフォワーディングする場合」があります。

- 特定のパケットのみをフィルタリングする場合は、フィルタリングするパケットの条件を指定し、フィルタリング種別を「フィルタリング」に設定します。
- 特定のパケットのみをフォワーディングする場合は、まずはじめに、すべての条件を「しない」、フィルタリング種別を「フィルタリング」に設定します。その次に、フォワーディングするパケットについては条件を指定して、フィルタリング種別を「フォワーディング」に設定します。

●ICMPパケットの送信のみを許可する場合

ICMP（pingなど）パケットを、送信のみ許可する場合は、以下のように設定します。

- フィルタリング設定

No.	IPアドレス／サブネットマスク		プロトコルID	ポート番号		フィルタリング方向	フィルタリング種別
	送信先	送信元		送信先	送信元		
1	*	*	*	*	*	送信	フィルタリング
2	*	*	1	*	*	送信	フォワーディング

- フィルタリングテーブル

接続先	フィルタリング設定	
	1	2
全てのインタフェース	☐	☐
LAN1	☐	☐
WAN1	☑	☑

●インターネットへのアクセスを制限する場合

ローカルネットワークからインターネットへアクセスするときに、HTTPサーバへのアクセスのみを許可する場合は、以下のように設定します。

- フィルタリング設定

No.	IPアドレス／サブネットマスク		プロトコルID	ポート番号		フィルタリング方向	フィルタリング種別
	送信先	送信元		送信先	送信元		
1	*	*	*	*	*	送信	フィルタリング
2	*	*	*	HTTP	*	送信	フォワーディング
3	*	*	*	DNS	*	送信	フォワーディング

- フィルタリングテーブル

接続先	フィルタリング設定		
	1	2	3
全てのインタフェース	☐	☐	☐
LAN1	☐	☐	☐
WAN1	☑	☑	☑

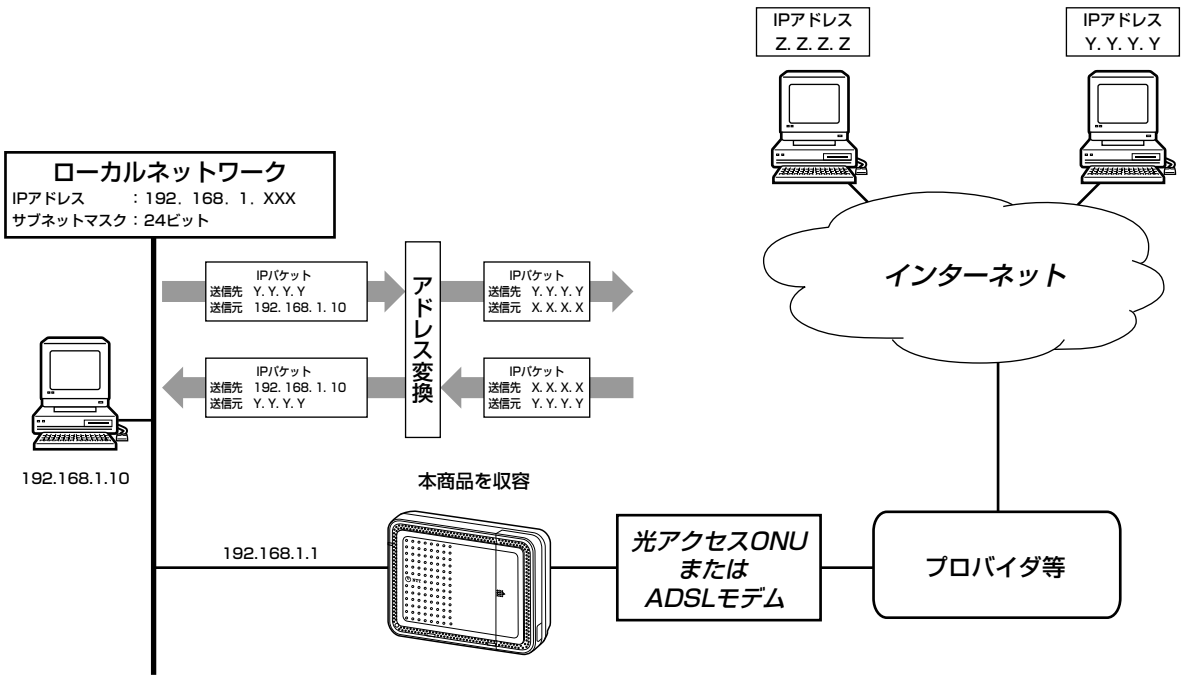
IPアドレス変換機能について

IPアドレス変換機能は、NAT（The IP Network Address Translator:RFC1631）を独自拡張したものでローカルLANのIPアドレスをグローバルIPアドレスに変換します。アドレス変換機能を使用することで、グローバルなネットワーク（インターネット）から内部のローカルネットワークを隠ぺいすることが可能なため、セキュリティ効果も得られます。
IPアドレス変換機能では、IPヘッダ内のIPアドレスの変換にともない、チェックサムの変換も行います。また、上位プロトコルがTCPの場合は、TCPヘッダ内のポート番号、SEQ/ACK番号、チェックサムの変換を行い、UDPの場合は、UDPヘッダ内のポート番号、チェックサムの変換を行います。
IPアドレス変換はアドレス変換設定により設定を行います。また、IPアドレス変換機能は、接続方法により次の2つの方法があります。

■ 端末型アドレス変換接続でのIPアドレス変換

端末型アドレス変換接続でのIPアドレス変換は、プロバイダ等に接続時に相手から割り当てられるグローバルなIPアドレスに対してローカルIPアドレスを変換する方法です。この方法は、ローカルLAN側からグローバルネットワークに対するパケットのローカルIPアドレスをグローバルIPアドレスに変更して送信し、グローバルネットワーク側から受信したパケットのグローバルIPアドレスをローカルIPアドレスに変更します。

【構成図】



・ローカルネットワークから受信したインターネット宛のIPアドレス(Y. Y. Y. Y)のパケットの送信元IPアドレスを、割り当てられたIPアドレス(X. X. X. X)に変換してインターネット側へ送信する。
・インターネット側から受信した割り当てられたIPアドレス(X. X. X. X)宛のパケットの送信先IPアドレスを、対応するローカルネットワーク側のIPアドレス(192. 168. 1. 10)に変換してローカルネットワークへ送信する。

お知らせ

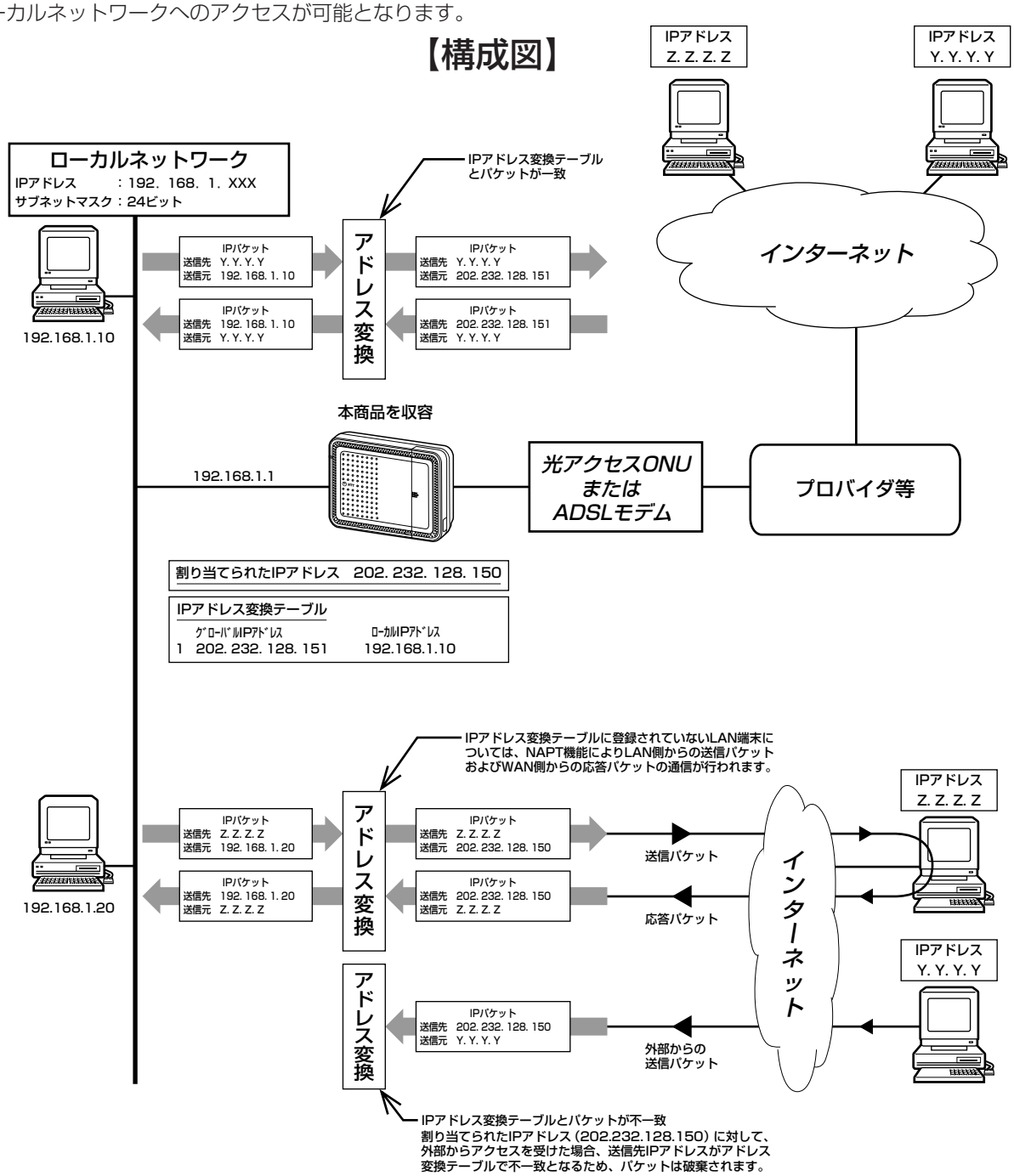
●端末型アドレス変換接続でのIPアドレス変換は、グローバルネットワークからローカルネットワークへのアクセスはできません。

IPアドレス変換機能について

■ LAN型アドレス変換接続でのIPアドレス変換

LAN型（ネットワーク型）アドレス変換接続でのIPアドレス変換は、プロバイダ等から割り当てられたグローバルIPアドレスを用いてIPアドレス変換を行う機能です。グローバルIPアドレスは、複数登録（最大登録数16）可能でそれぞれのIPアドレスに対してローカルIPアドレスを割り当てる変換テーブルを登録することで、グローバルネットワークからローカルネットワークへのアクセスが可能となります。

【構成図】



お知らせ

- LAN型アドレス変換接続により複数のIPアドレスをプロバイダから割り当てられている場合は、グローバルなIPアドレスに対してローカルネットワークへのIPアドレス変換テーブル（WANインタフェース設定ごと）を設定することにより、グローバルネットワークから指定されたローカル端末へのアクセスが可能になります。

DHCPサーバによる動的アドレス割り付け

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）は、クライアント機能を持つ端末に対して、IPアドレス・ＤＮＳサーバアドレス・ゲートウェイアドレスを割り付けることができます。

●本商品のDHCPサーバにより、端末への設定が容易になります。

DHCPサーバを使用することにより、ネットワーク端末のDHCPクライアント機能を利用してIPアドレスを自動的に割り付けることができます。これによりネットワーク端末へのIPアドレス設定をDHCPによる動的な割り付けに設定することで、ネットワーク端末側の設定も容易になります。
また、IPアドレスと同時に、サブネットマスクや、DNSサーバアドレス、ゲートウェイアドレスも通知するため、これらの情報を一括管理することができます。

●本商品のDHCPサーバ機能は、次のデータを割り付けまたは通知します。

① Client Server-assigned IP address
クライアントに割り付けるIPアドレスです。
動的な割り付けと静的な割り付けがあり、アドレス割り付け設定に従いIPアドレスを割り付けます。

② Server IP address(DHCP Server)
本商品のLANインタフェースで設定されているIPアドレスを通知します。

③ Subnet mask
本商品のLANインタフェースで設定されているサブネットマスクを通知します。

④ Gateway Address
ゲートウェイに設定されたIPアドレスを通知します。

⑤ Domain Name Server address
本商品のIPアドレスまたはProxyDNS設定の通知DNSサーバアドレスを通知します。

⑥ NetBIOS over TCP/IP Name Server
WINSサーバに設定されたIPアドレスを通知します。

- 指定されたIPアドレスの範囲から自動的に割り付ける動的な割り付け
パソコン側へは、自動的に設定されたIPアドレスを割り付けるためIPアドレスを意識する必要がありません。
アドレス割り付け設定の割り付けを行う先頭IPアドレスを設定し、割り付け数分のIPアドレスから空いているIPアドレスを割り付けます。
- 固定割り付けテーブルによる静的な割り付け
動的な割り付けと同様に自動的にIPアドレスを割り付けますが、ネットワーク端末ごとに固定のIPアドレスを割り付けます。これは、サーバなど外部からアクセスされるような場合に設定します。
アドレス割り付けクライアントからのアドレス要求において、要求しているクライアントのホスト名またはMACアドレスから固定割り付けテーブルを比較し、一致した場合に登録されているIPアドレスを割り付けます。

お知らせ

●同じネットワーク内で他のDHCPサーバがすでに起動している場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「無効」に設定してください。
●DHCPサーバ機能は、初期設定で「有効」に設定されています。
●ネットワーク端末側のDHCPクライアント設定については、お使いのパソコンオペレーティングシステムの取扱説明書をお読みください。

IP電話サービスについて

■IP電話の利用

- ●IP電話をご利用いただくためには、プロバイダ等とのIP電話サービス契約および本商品へのIP電話設定が必要です。なお、本商品がインターネットに接続されていない場合やプロバイダ等のサーバと通信できる状態にない場合、IP電話はご利用できません。
- ●IP電話はプロバイダ等が提供するサービスです。IP電話のサービス内容や利用料金等を、ご契約されるプロバイダ等に必ずご確認ください。
- ●IP電話として通話した場合の通話料金はプロバイダ等から請求されます。また、IP電話として通話した場合に相手先に通知できる発信者番号は、プロバイダ等から付与されたIP電話番号です。
- ●IP電話として接続できない通話（IP電話サービス対象外の番号をダイヤルした場合等）は、主装置の設定により加入電話／INSネットを利用して自動的に迂回発信できます。迂回発信される条件はご契約されたIP電話サービスによって異なりますので、プロバイダ等にご確認ください。
- ●IP電話の通話品質は、下記のような場合に劣化することがあります。
  - －契約回線（フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・ADSL）の接続状況によって十分な帯域が確保できない場合
  - －インターネットで十分な帯域が確保できない場合
  - －本商品に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- ●IP電話でファクスやアナログモデム通信を行った場合、あるいは音声ガイド等で通話中にプッシュ信号の入力が必要な場合は、通信に失敗することがあります。通信が失敗した場合でも、失敗するまでの通信に対して使用料金がかかります。確実に通信したい場合には、加入電話／INSネットをご利用ください。
- ●加入電話／INSネット回線に着信があった場合、ADSL回線による接続が途切れることがあります。ADSL回線による接続が途切れると、IP電話通話中の場合は通話が切断されます。
- ●IP電話通話中に本商品の電源が切れた場合や再起動中、システム更新中は、通話が切断されます。
- ●ひかり電話をご利用の場合は、ひかり電話対応機器と本商品のWANの間にハブを入れないでください。ひかり電話対応機器と本商品は必ず直結してください。
  ひかり電話対応機器と通信が切断された場合、本商品は自動的に再起動を行います。

パソコンの設定

本商品を設定および運用する場合は、パソコン側で以下の準備が必要です。

対応OS	Windows® 2000、Windows® XP、Windows Vista®
LANカード／ボード	本商品を利用する場合にパソコンに装着されていることが必要です。お使いのパソコンに適するLANカード／ボードをご用意ください。
WWWブラウザ	本商品の設定を行う場合には、次のWWWブラウザを推奨します。 Windows Vista®：Internet Explorer® 7.0以降 Windows® XP（SP2）：Internet Explorer® 6.0（SP2）以降 Windows® 2000（SP4）：Internet Explorer® 6.0（SP1）以降 （2008年5月現在）
10BASE-T／100BASE-TXケーブル	本商品とパソコン、またはハブを接続するときに必要です。
プロバイダ等への加入	インターネット接続を行う場合、インターネットにアクセスするサービスを提供するプロバイダに加入するのが一般的です。

お知らせ

- ここでの説明は、一例を示しています。詳細は、ソフトウェアメーカー、パソコンメーカー、LANカード／ボードメーカー、プロバイダ等にお問い合わせください。
- TCP／IPプロトコルおよびLANカード／ボードのソフトウェア（ネットワークドライバ）のインストールには、Windows® 2000 ／ Windows® XPのCD-ROMまたは、フロッピーディスクやLANカード／ボードメーカーから提供されたフロッピーディスクが必要になる場合があります。

パソコンの設定

■Windows® 2000

本商品の設定を行う前に必要に応じてお使いのパソコンで次のような操作を行ってください。

1. パソコンの起動
2. LANカード／ボードの設定
3. TCP／IPのインストール
4. TCP／IPの設定

① パソコンを起動する

パソコンの電源を入れ、起動します。
デスクトップ画面の表示になります。

② LANカード／ボードの設定を行う

すでにLANカード／ボードを使用している場合は、「③TCP／IPのインストール」へ進んでください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［設定］をポイントして、［コントロールパネル］をクリックします。

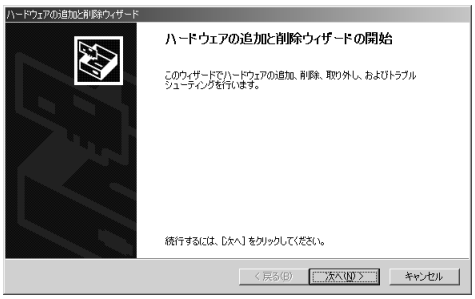
［コントロールパネル］が表示されます。

お知らせ

●お使いのLANカード／ボードの取扱説明書を参照し、指示に従って選択してください。

2 ［ハードウェアの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザードの開始」画面が表示されます。



3 画面に表示される指示に従って、LANアダプタ／カードの設定をします。

③ TCP／IPのインストールを行う

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［設定］をポイントして、［コントロールパネル］をクリックします。

［コントロールパネル］が表示されます。

2 コントロールパネルの［ネットワークとダイヤルアップ接続］をダブルクリックします。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

3 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。

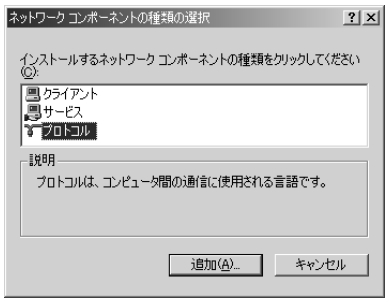
「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されます。

4 [インターネットプロトコル（TCP／IP)] があるか確認します。

ある場合は「④TCP／IPの設定」へ進んでください。

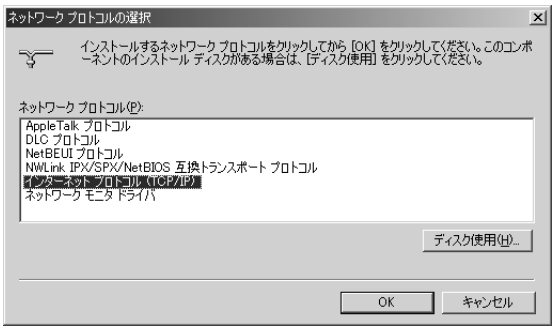
5 「インストール」ボタンをクリックします。

「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されます。



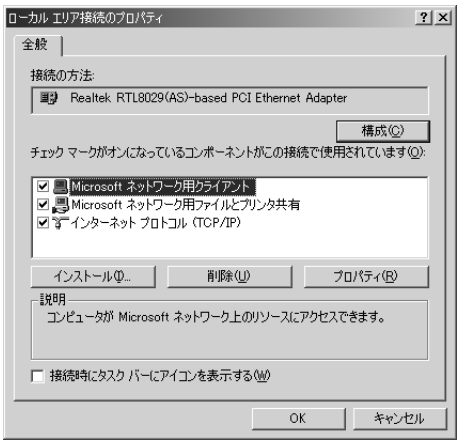
6 [プロトコル] を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。



7 [インターネットプロトコル（TCP／IP)] を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

TCP／IPプロトコルがインストールされます。



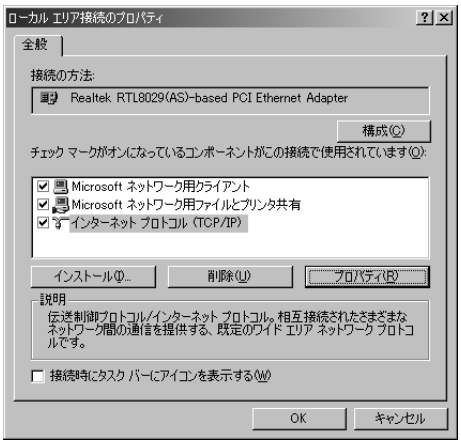
（次ページへつづく）

パソコンの設定

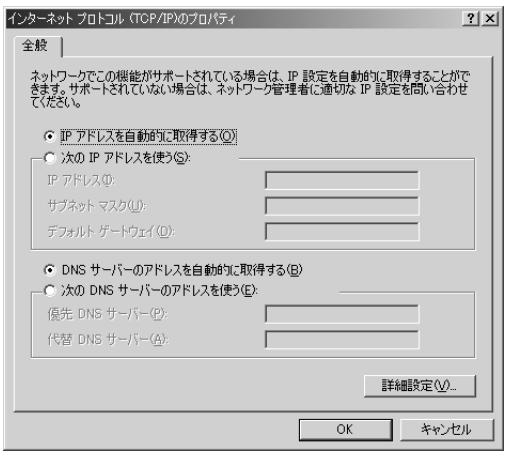
（前ページのつづき）

4 TCP／IPの設定を行う

1 [インターネットプロトコル（TCP／IP）]を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



2 [IPアドレスを自動的に取得する]と[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]を選択します。



3 「詳細設定」ボタンをクリックします。

「TCP／IP詳細設定」画面が表示されます。

4 [IPアドレス]に[DHCP有効]、また[デフォルトゲートウェイ]は空欄になっていることを確認します。

5 「OK」ボタンをクリックします。

「インターネットプロトコル（TCP／IP）のプロパティ」画面に戻ります。

6 「OK」ボタンをクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面に戻ります。

7 「OK」ボタンをクリックします。

■Windows® XP

本商品の設定を行う前に必要に応じてお使いのパソコンで次のような操作を行ってください。

1. パソコンの起動
2. LANカード／ボードの設定
3. TCP／IPのインストール
4. TCP／IPの設定

① パソコンを起動する

パソコンの電源を入れ、起動します。
デスクトップ画面の表示になります。

② LANカード／ボードの設定を行う

すでにLANカード／ボードを使用している場合は、「③TCP／IPのインストール」へ進んでください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［コントロールパネル］をクリックします。

［コントロールパネル］が表示されます。

ワンポイント

●Windows® XPの操作について

操作手順は標準設定のカテゴリを表示するコントロールパネルで説明しています。コントロールパネルをクラシック表示にしてある場合は操作が異なります。

お知らせ

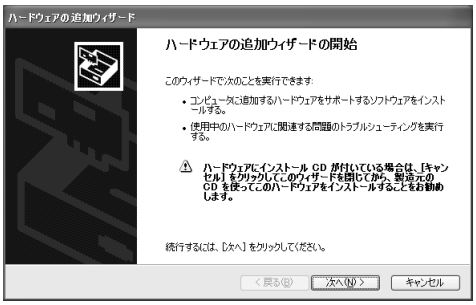
●お使いのLANカード／ボードの取扱説明書を参照し、指示に従って選択してください。

2 ［プリンタとその他のハードウェア］アイコンをクリックします。

［プリンタとその他のハードウェア］が表示されます。

3 関連項目の［ハードウェアの追加］をクリックします。

「ハードウェアの追加ウィザードの開始」画面が表示されます。



4 画面に表示される指示に従って、LANアダプタ／カードの設定をします。

③ TCP／IPのインストールを行う

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［コントロールパネル］をクリックします。

［コントロールパネル］が表示されます。

2 コントロールパネルの［ネットワークとインターネット接続］をクリックします。

［ネットワークとインターネット接続］が表示されます。

3 ［ネットワーク接続］アイコンをクリックします。

［ネットワーク接続］が表示されます。

（次ページへつづく）

パソコンの設定

（前ページのつづき）

4 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。

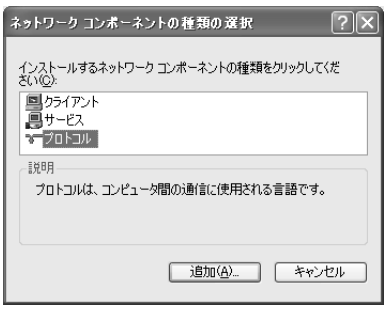
「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されます。

5 [インターネットプロトコル（TCP／IP)] があるか確認します。

ある場合は「④TCP／IPの設定」へ進んでください。

6 「インストール」ボタンをクリックします。

「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されます。



7 [プロトコル] を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。

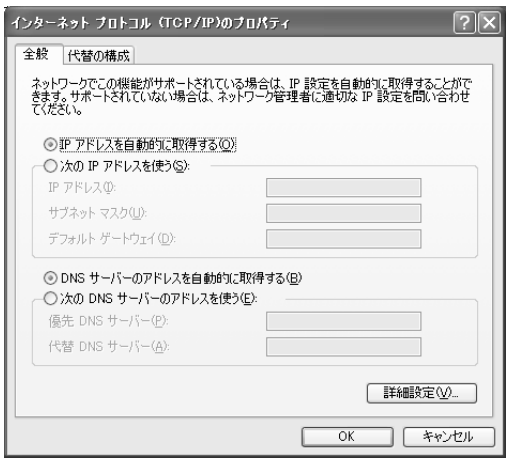
8 [インターネットプロトコル（TCP／IP)] を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

TCP／IPプロトコルがインストールされます。

4 TCP／IPの設定を行う

1 [インターネットプロトコル（TCP／IP）]を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

2 [IPアドレスを自動的に取得する]と[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をオンにします。



3 「詳細設定」ボタンをクリックします。

「TCP／IP詳細設定」画面が表示されます。

4 [IPアドレス]に[DHCP有効]、また[デフォルトゲートウェイ]は空欄になっていることを確認します。

5 「OK」ボタンをクリックします。

「インターネットプロトコル（TCP／IP）のプロパティ」画面に戻ります。

6 「OK」ボタンをクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面に戻ります。

7 「OK」または「閉じる」ボタンをクリックします。

パソコンの設定

■Windows Vista®

本商品の設定を行う前に必要に応じてお使いのパソコンで次のような操作を行ってください。

1. パソコンの起動
2. LANカード／ボードの設定
3. TCP／IPを有効にする
4. TCP／IPの設定

1 パソコンを起動する

パソコンの電源を入れ、起動します。
デスクトップ画面の表示になります。

2 LANカード／ボードの設定を行う

すでにLANカード／ボードを使用している場合は、「③TCP／IPを有効にする」へ進んでください。

1 [スタート]（Windowsロゴ）ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]が表示されます。

2 [クラシック表示]をクリックします。

※クラシック表示になっている場合は、この操作は不要です。

お知らせ

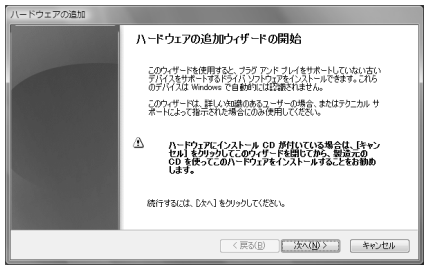
●お使いのLANカード／ボードの取扱説明書を参照し、指示に従って選択してください。

3 [ハードウェアの追加]をダブルクリックします。

※[ユーザーアカウント制御]画面が表示された場合は、[続行]をクリックします。

「ハードウェアの追加ウィザードの開始」画面が表示されます。

4 画面に表示される指示に従って、LANアダプタ／カードの設定をします。



3 TCP／IPを有効にする

1 [スタート]（Windowsロゴ）ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]が表示されます。

2 コントロールパネルの[ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。

※クラシック表示の場合は、[ネットワークと共有センター]アイコンをダブルクリックします。
[ネットワークと共有センター]が表示されます。

3 [ネットワーク接続の管理]をクリックします。

[ネットワーク接続]が表示されます。

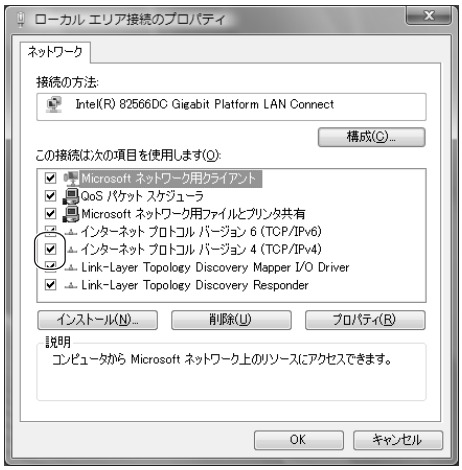
4 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

※［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、［続行］をクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されます。

5 [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP／IPv4)] にチェックを入れます。

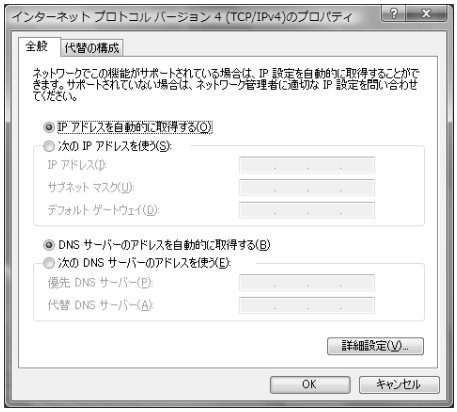
チェックが入っている場合は、そのまま「④TCP／IPの設定」へ進んでください。



4 TCP／IPの設定を行う

1 [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP／IPv4)] を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

2 [IPアドレスを自動的に取得する] と [DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] をオンにします。



3 「詳細設定」ボタンをクリックします。

「TCP／IP詳細設定」画面が表示されます。

4 [IPアドレス] に [DHCP有効]、また [デフォルトゲートウェイ] は空欄になっていることを確認します。

5 「OK」ボタンをクリックします。

「インターネットプロトコルバージョン4（TCP／IPv4）のプロパティ」画面に戻ります。

6 「OK」ボタンをクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面に戻ります。

7 「OK」または「閉じる」ボタンをクリックします。

停電になったときは

ご利用中に停電になった場合は以下のことにご注意ください。

●停電時には以下のことにご注意ください。

<table>
<tr><td>LAN側に接続されたパソコン</td><td colspan="2">インターネット接続</td><td>ご利用になれません</td></tr>
<tr><td>すべての内線電話機</td><td colspan="2">IP電話サービス</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブロードバンドルータユニット（本商品）</td><td rowspan="2">設定データ保存中</td><td>LAN側IPアドレス</td><td>お買い求め時のIPアドレス（192.168.1.1）に変更される場合があります
設定変更前または設定変更後のIPアドレスで本商品にアクセスできない場合は、電話機でIPアドレスを確認してください</td></tr>
<tr><td>その他の設定</td><td>設定データはお買い求め時の初期値に変更される場合があります</td></tr>
</table>

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、修理を依頼する前に次の点をご確認ください。

こんなときは	原　因	確認してください	参照ページ
インターネットにアクセスできない	主装置の電源が入っていない	主装置の電源スイッチをオンにしてください	－
	主装置の電源コードが抜けている	電源コードを正しく接続してください	－
	停電中	停電が復旧するまで使えません	☛P94
	パソコンのネットワーク設定が間違っている	パソコンのネットワーク設定を確認してください	☛P85
	本商品のルータ設定が間違っている	本商品のルータ設定を確認してください	☛P17 ☛P56
IP電話が利用できない	WAN側との通信が切断されている	WANインタフェースの手動操作により接続し直すか、または、本商品の再起動を行ってください	☛P51 ☛P57
	設定されたIP電話回線を使用していない	IP電話回線が設定されている外線ボタンを使用してご利用ください	☛P49
	その他の原因	主装置の取扱説明書をご確認ください	－

用語の説明

以下に本文中の用語の説明を行います。

数字

10BASE-T……IEEE802.3で規格されたもので、イーサネット（CSMA／CD）LANでデータ転送速度が10 Mbps、伝送媒体としてツイストペアケーブル（通常、LAN機器とハブを接続するような場合に使用されるケーブル）を用います。

100BASE-TX……IEEE802.3uで規格された高速ＬＡＮの１つで、ＬＡＮでデータ転送速度が100Mbps、伝送媒体としてツイストペアケーブル（通常、ＬＡＮ機器とハブを接続するような場合に使用されるケーブル）を用います。

アルファベット

ADSL……従来使用しているアナログ電話回線を利用して、インターネットの常時接続環境を提供する方式です。音声通話で使われていない周波数帯域を利用するので、現在使用している１本の電話回線で、電話とインターネットの両方を同時に利用することができます。通信方向（上り／下り）によって、速度が異なる特徴があります。

ASCII文字……米国規格協会（ANSI）が制定した標準符号。ASCIIは７ビットで構成され、制御文字、特殊文字、数字、英大・小文字の128種類の文字を表現します。

Bフレッツ……接続回線に光ファイバを利用した通信サービスです。最大100Mbpsの高速インターネット接続が可能です。

CHAP（Challenge Authentication Protocol）……
PAPと同様に認証を行うプロトコルですが、パスワードを通知するときにパスワードを暗号化して送ることでパスワードの盗視を防ぐため、よりセキュリティが高いプロトコルです。

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol<RFC2131>）……
DHCPは、IPアドレスやDNSサーバアドレスなど、ネットワーク端末の設定情報を動的に割り付けるプロトコルです。

DNS（Domain Name System）……
DNSは、ネットワークのIPアドレスとドメイン名を解決するためのシステムで、ドメイン名から対応するIPアドレスへの変換／逆変換を行います。

IPCP……Internet Protocol Control Protocolの略。

IPv6……Internet Protocol Version 6の略で、アドレス空間増加やセキュリティ機能追加等に対応した次世代のインターネットプロトコルです。

IPアドレス……TCP／IPで通信をする場合に、ネットワーク上の機器を特定するために使用される番号を指します。IPアドレスは、4バイトのデータからなり、インターネットに接続中のすべての機器に個別のIPアドレスが割り当てられています。

IP電話……IP網を利用して通話する電話のことを表します。

IPプロトコル……取扱説明書で使用しているIPプロトコルまたはIPプロトコルタイプは、IPに関連するパケットの総称として使用しています。特にプロトコルとして存在するわけではありません。

IPマスカレード……IPアドレス変換方式の1つで、ローカルネットワークに接続された複数の端末のIPアドレスを、1つのグローバルIPアドレスに変換することにより、複数の端末からインターネットへ接続することができます。また、IPアドレスの変換を行うことで、ローカルネットワークを外部から隠ぺいすることができるため、セキュリティ効果が得られます。

LCP ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Link Control Protocolの略。

MACアドレス ・・・・・・・・・・・・・・・・・MACアドレスは、イーサネットに接続時に使用される物理的なアドレスで、データ通信時に送信先／送信元アドレスで使用されるものです。MACアドレスとイーサネットアドレスは同義語です。
MACアドレスは6バイトからなり、各LAN端末ごとにユニークな値が割り当てられています。（MACアドレスは、LANのインタフェースに世界で1つ割り当てられる番号です。また、変更も不可能です。）

NAT（The IP Network Adress Translator）・・・・・
NATは、RFC1631で提案されているIPアドレスの変換方式で、インターネットなどで使用するグローバルなIPアドレスとローカルなIPアドレスを変換する方式について記載されています。

NAPT（Network Address Port Translation）・・・・・
IPアドレス変換方式の1つで、IPマスカレードとほぼ同じ機能です。

PAP（Password Authentication Protocol）・・・・・
パスワード認証プロトコルで、ネットワークアクセス時にパスワードにより認証を行い、不正なアクセスを防ぐためのプロトコルです。

PING ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・PINGとはIPアドレスを持つ相手の装置が現在ネットワークに接続されているかを確認するためのコマンドを指します。PINGコマンドではICMPのエコー要求／応答機能を利用して相手を確認します。

PPP（Point to Point Protocol＜RFC1661＞）・・・・・
公衆網などのシリアル回線においてデータ転送を行う場合の標準化プロトコルです。

PPPoE（PPPover Ethernet）・・・・・
インターネットへのダイヤルアップ接続で最も一般的に使われているPPP機能をイーサネット上で使うためのプロトコルです。

ProxyDNS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ネットワーク端末からのDNS問い合わせをDNSサーバへ中継します。また中継されたデータのキャッシュを行うことで、DNS問い合わせに対して代理で応答することができます。

PSTN（Public Switched Telephone Networks）・・・・・
「公衆電話回線網」と訳される一般加入電話回線網のことです。

RFC（Request for Comments）・・・・・
IETF（Internet Engineering Task Force）がとりまとめている文章のことを指し、TCP／IPやPPPなどの規格としても知られています。

RIP（Routing Information Protocol）・・・・・
IPに関するルーティングテーブルをルータ間でやりとりするプロトコルです。このプロトコルを使用することにより、ルータ間でルーティング情報を更新し、更新したテーブルにもとづき、ルーティングを行います。

UPnP(Universal Plug and Play)・・・・・
パソコンや周辺機器、家電製品などを簡単に接続して、便利に使えるようにしようという規格の1つです。
もともとマイクロソフト社が提唱したもので、現在は「Universal Plug and Play フォーラム」という団体が規格作りを進めています。

用語の説明

五十音

【ア行】

イーサネット ……1970年代に米国ゼロックス社が開発し、現在では代表的なLANの規格の1つです。インターネットの標準化組織であるIEEE802委員会が標準化した802.3CSMA／CDとイーサネットとは同義語として扱われることがあります。

イーサネットタイプ……イーサネットフレームにおける2バイトのデータで、上位レイヤのプロトコル種別を指します。

インターネット ……インターネットとは、世界150か国以上にまたがり企業や学術施設、商用ネットワークなどを相互に結んだ世界最大のネットワークです。

【サ行】

サブネットマスク ……サブネットマスクは、IPアドレスのネットワーク部分を識別するためのマスクを表し、IPアドレスの先頭ビットからのビット数をネットワーク部分と判断します。また取扱説明書では、フィルタリングなどで受信したIPアドレスを比較するビットとしてサブネットマスクを使用している場合もあります。

シフトJIS（シフトJISコード）……漢字コードを表すコード体系の1つで、MS-DOS®、Windows®、OS／2など、多くのパソコンOSに採用されています。

静的IPマスカレード ……静的IPマスカレードとは、IPアドレス変換機能を利用時に、ポート番号から接続するローカルネットワーク端末へ一意に割り付けを行う機能です。この場合、指定されたポート番号のIPパケットは、すべて対応するローカルネットワーク端末へ転送されます。

【ハ行】

バージョンアップ ……最新のプログラムをダウンロードすることにより、最新の機能をご利用になれます。

ハブ（HUB）……ハブはLANに接続させる中継器としての役割を持ち、複数のLANを収容することによりネットワークを構築することができます。また、ハブはRJ45のポートを複数収容し、ネットワーク機器とスター型で接続します。

フィルタリング……送信／受信されるパケットの内容を判断し、パケットを通過させる／破棄するを決定することです。

フォワード ……送信するまたは受信したパケットを通過させることを指します。

フレッツ・ADSL ……現在お使いの加入電話回線で高速なインターネット接続を提供するサービスです。フレッツ・ADSLのサービスには、既設の加入電話回線を利用する場合と、フレッツ・ADSL専用の回線を新設する場合があり、ご利用形態に合わせて選択することができます。

フレッツ 光ネクスト……接続回線に光ファイバを利用した次世代ネットワークの通信サービスです。最大100Mbpsの高速インターネット接続が可能です。

プロトコルタイプ ……取扱説明書で使用しているプロトコルタイプという言葉は、IPやNetWare、AppleTalkなどの各プロトコルの種別を表しています。

プロバイダ……商用インターネットサービスプロバイダ（ISP）のこと。インターネットへの接続を有償で提供する接続サービス事業者です。

ホップ数 ……宛先までに通過するルータの数を表します。

索　引

アルファベット

Bフレッツ接続 ……12
DHCPサーバによる動的アドレス割り付け ……83
DNS設定……28
IPアドレス
　IPアドレスを本商品に割り付ける ……79
　IPアドレスについて ……79
　IPアドレスの割り付け方法 ……79
　IPアドレス変換機能 ……81
IP電話
　IP電話サービス ……13
　IP電話サービスを使う ……49
　IP電話サービスについて ……84
IPv6ブリッジ設定 ……24
LANインタフェース設定……21
NAPT設定 ……32
NAT設定……31
PPPoEブリッジ設定 ……23
UPnP設定 ……22
WAN／VoIPの起動・停止を行う ……51
WANインタフェース設定 ……17

五十音

【ア行】

アドレス変換設定 ……31
アドレス割り付け設定 ……25
インターネット接続を行う ……16
運用時に利用できる操作 ……50

【カ行】

故障かな?と思ったら ……95

【サ行】

再起動 ……57
仕様……102
初期化
　設定データを初期化する ……48
静的NAPT設定 ……32
自動バージョンアップ ……58
自動バージョンアップ設定 ……45
接続
　インターネット接続を行う ……16
設定
　DNS設定……28
　IPv6ブリッジ設定……24
　LANインタフェース設定……21
　NAT設定……31
　PPPoEブリッジ設定……23
　UPnP設定 ……22
　WANインタフェース設定 ……17
　アドレス変換設定 ……31
　アドレス割り付け設定 ……25
　静的NAPT設定 ……32
　自動バージョンアップ設定 ……45
　データ設定 ……21
　パスワード設定 ……44
　フィルタリング設定 ……40
　ルーティング設定 ……34
設定一覧表示 ……56
設定データを初期化する ……48
設定データを保存する ……47
設定方法について ……16

設定例
フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／
フレッツ・ADSL接続設定例 ……60
DHCPサーバによるIPアドレスの
自動割り付け設定例 ……71
PPPoEブリッジ機能を使用して
フレッツ・スクウェアを利用する設定例 ‥64
Windows® Messenger利用時の設定例‥‥72
擬似的なDMZの設定例 ……69
同時にインターネットと
フレッツ・スクウェアを利用する設定例 ‥62
フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／
フレッツ・グループ（NTT西日本）
利用時の設定例 ……66
操作の流れ ……14

【タ行】

データ設定 ……21
停電になったときは ……94
特長 ……11

【ハ行】

バージョンアップ ……58
パスワード設定 ……44
パソコンの設定 ……85
Windows®2000 ……86
Windows Vista® ……92
Windows®XP ……89
フィルタリング
フィルタリングについて ……80
フィルタリング設定 ……40
フレッツ・ADSL接続 ……12
フレッツ 光ネクスト接続……12
保守サービス……103
本商品にログインする ……15

【ヤ行】

用語の説明 ……96

【ラ行】

利用例
フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／
フレッツ・ADSL接続 ……12
IP電話サービス ……13
ルーティング設定 ……34
レポート表示
ARPテーブルを表示……53
DHCP割り付け状態を表示 ……54
DNSキャッシュテーブルを表示……53
IPルーティング情報を表示 ……53
インタフェース状態を表示 ……52
パケット統計情報を表示 ……52
ログを表示 ……55
ローカルバージョンアップ ……59
ログイン ……15

仕様

項　目			仕　様
LAN側インタフェース	物理インタフェース		IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u(100BASE-TX)
		伝送速度	10/100 Mbps 自動認識
		ポート数	2ポート 全ポートAUTO-MDIX機能搭載
		接続コネクタ	RJ45（8ピンモジュラジャック）
		最大伝送距離	100 m
	対応プロトコル		TCP/IP
WAN側インタフェース	物理インタフェース		IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u(100BASE-TX)
		伝送速度	10/100 Mbps 自動認識
		ポート数	1ポート　AUTO-MDIX機能搭載
		接続コネクタ	RJ45（8ピンモジュラジャック）
		最大伝送距離	100 m
	対応プロトコル		TCP/IP、PPP、PPPoE、SIP
	セッション数		最大4本
VoIPインタフェース	対応プロトコル		SIP
	通話数		最大2通話
	音声符号化則		JT-G.711 μLaw

保守サービスのご案内

■保守サービスのご案内

●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたします。
「保証書」は主装置等に添付されています。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

●故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

●その他

定額保守サービス料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：フリーアクセス 0120-970413
※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間　9：00～21：00
※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：フリーアクセス 0120-248995
受付時間　9：00～17：00
※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

●補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しております。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：http://web116.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：フリーアクセス 0120-970413

※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間　9：00～21：00
※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：フリーアクセス 0120-248995

受付時間　9：00～17：00
※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©2010 NTTEAST・NTTWEST

本2842-3(2010.2)
BX-BRUトリセツ-<1>
4350060000 H03